

講 義 要 綱

授業科目名	ミクロ経済学Ⅰ (2単位) Microeconomics I	開講時限	秋学期 月曜日1時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	田村 彌 (大学院経済学研究科) Wataru TAMURA	office hour	月曜 12:00-13:00 (NUCTでも質問対応します)
授業の目的 現代の経済社会における諸問題を考えるために必要な基礎知識および分析能力を育むとともに、市場メカニズムと経済学の基本原理についての理解を深めることを目的とする。 This course provides students with the basic knowledge and skills required to understand and analyze problems in modern economic societies, promoting understanding of market mechanisms and basic principles of economics.			
到達目標 競争市場における需要と供給の考え方を身に付け、ミクロ経済学的な観点から現実の市場について分析できることを到達目標とする。 Students will be able to understand demand and supply in competitive markets and analyze real markets from microeconomic perspectives.			

授業の構成

1	ガイダンスと導入
2	経済学の原理と実践
3	経済学の方法と問い
4	最適化：最善をつくす
5	需要・供給・均衡
6	「需要と供給」の応用
7	グラフの作成と解釈・レポートのガイダンス
8	消費者とインセンティブ
9	生産者とインセンティブ1 (費用構造と利潤最大化)
10	生産者とインセンティブ2 (参入と退出を通じた調整)
11	完全競争と見えざる手
12	市場の失敗
13	応用・発展トピック1
14	応用・発展トピック2
15	まとめ

成績評価の方法と基準 宿題 (30%)・小テスト (30%)・レポート (40%) で評価する。それぞれについて、以下の合格基準を満たすことを合格要件とする。 各項目の合格基準 ・宿題：授業内容の概略を説明できること・他者の質問に対して論理的に回答できること。 ・小テスト：基礎的な用語を正しく理解していること。 ・レポート：ミクロ経済学の基礎的な考え方を応用して現実の市場について分析できること。 学期途中で履修の意思がなくなった場合、履修取り下げ届を提出する必要がある。
--

授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書の該当ページを読み、疑問を用意する。授業中に行う小テストについて復習する。宿題やレポートに取り組む。
教科書 授業はアセモグル／レイブソン／リスト・ミクロ経済学 東洋経済新報社 に沿って進める。英語に抵抗がない学生には英語版の Acemoglu, Laibson, List, Microeconomics (もしくは Economics), Second Edition を勧める。
参考書 より入門向けの参考書として ・安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア 2013年 経済学の問いやデータ分析に関する一般向けの書籍として ・伊藤 公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2017年 その他の参考書は授業中に紹介する。
履修条件・関連する科目・注意事項 「統計解析」「経済数学1・2」の履修済みであることが望ましいが、未履修でも受講可能。 また「マクロ経済学Ⅰ」および「計量経済学Ⅰ」を同時に履修することを強く勧める。

授業科目名	ミクロ経済学Ⅱ (2単位) Microeconomics II	開講時限	春学期 月曜日3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	中村 さやか (大学院経済学研究科) Sayaka NAKAMURA	office hour	講義終了後。質問は講義中も随時受け付ける。NUCT メッセージ機能でも質問可。
授業の目的 ミクロ経済学Ⅰで扱われた内容をもとに、不確実性の下での経済主体の行動、ゲーム理論、独占市場や寡占市場における企業行動と資源配分、外部性、公共財等のミクロ経済学の重要なトピックについて学ぶ。経済学の基礎知識を確実に習得し、現代の経済社会が直面する諸課題へミクロ経済学が示す解決策を学ぶことを目的とする。 Building on materials covered in Microeconomics I, students will learn important topics in microeconomics, including behavior of economic entities under uncertainty, game theory, firm behavior and resource allocation under monopoly and oligopoly, externalities, and public goods. Students learn the basics of economics and microeconomic solutions to the problems faced by contemporary economy and society.			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 不確実性や外部性の下での経済主体や独占市場や寡占市場の企業について、最適化行動を定式化し、最適解を導き、結果として生じる資源配分や余剰を求めることができる。 ● ゲーム理論の基本概念を理解し、単純なゲームのナッシュ均衡を求めることができる。 			

教科書・参考書 教科書：ハル ヴァリアン、『入門ミクロ経済学：原著第9版』勁草書房、2015年。 (原著：Varian HR, Intermediate Microeconomics: A Modern Approach, Ninth International Student Edition, W. W. Norton & Company, 2014) 参考書：神取 道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2014年。
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学Ⅰと経済数学Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。未履修でも受講可能であるが、これらの講義内容の理解を前提とする。

授業の構成

1	不確実性1：不確実性の下での予算制約・選好
2	不確実性2：不確実性の下での選択と保険・投資
3	独占1：独占企業の行動・独占への課税
4	独占2：独占の非効率性・自然独占
5	独占企業の行動1：第一次および第三次価格差別
6	独占企業の行動2：第二次価格差別・製品差別化
7	前半宿題解説
8	ゲーム理論1：ナッシュ均衡・同時手番ゲーム・逐次手番ゲーム
9	ゲーム理論2：混合戦略・繰り返しゲーム
10	寡占1：クールノーゲームと談合
11	寡占2：シュタッケルベルクゲーム・ベルトランゲーム
12	外部性1：外部性の非効率性・コースの定理
13	外部性2：生産の外部性における内部化とコースの定理
14	前半宿題解説
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 宿題(20%)と期末試験(80%)により評価する。それぞれについてC- 評定以上(2019年度以前の入学者についてはC 評定以上)を合格要件とする。授業で扱うトピックの基礎的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に講義資料と教科書の該当箇所を読んでおく。授業後に毎回宿題を課すので、次回講義前に設定された期限までにNUCTを通じて提出する。	

授業科目名	マクロ経済学Ⅰ（2単位） Macroeconomics I	開講時限	秋学期 火曜日 5時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	齊藤 誠（大学院経済学研究科） Makoto SAITO	office hour	火曜日 4時限
授業の目的 マクロ経済学の基礎を広く深く講義することを目的としている。マクロ経済学ⅠとⅡを通して受講することで、卒業後に「大学でマクロ経済学を学んだ」といっても恥ずかしくないレベルを目指す。経済理論を中心としつつ、マクロ経済統計を経済理論にそって適切に解釈できるトレーニングを積む。経済学の知見を駆使して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができるようにする。 This course provides first-year students with wide and deep knowledge of macroeconomics. A student, who takes both macroeconomics I and II with reasonable efforts, can attain the level at which students graduating from a department of economics of an excellent university are supposed to understand macroeconomics. This course presents theory first, but offers an opportunity for students to interpret macroeconomic data along appropriate theory.			
到達目標 マクロ経済学ⅠとⅡを通じて、マクロ経済学の短期、中期、長期的な理論を学ぶとともに、それを、日本や他国のマクロ経済に応用する能力を養う。			

授業の構成

1	マクロ経済学の発想
2	国民経済計算の考え方（その1）
3	国民経済計算の考え方（その2）
4	資金循環表と国際収支表
5	労働統計の読み方
6	閉鎖経済の短期モデル：消費関数と乗数効果
7	閉鎖経済の短期モデル：事前と事後をつなぐ在庫の意味
8	閉鎖経済の短期モデル：IS曲線とLM曲線
9	閉鎖経済の短期モデル：マクロ経済政策の評価
10	閉鎖経済の中期モデル：労働市場と総供給曲線
11	閉鎖経済の中期モデル：合理的期待とマクロ経済政策の効果
12	閉鎖経済の中期モデル：さまざまなフィリップス曲線
13	閉鎖経済の中期モデル：日本経済への応用
14	閉鎖経済モデルの復習（その1）
15	閉鎖経済モデルの復習（その2）
成績評価の方法と基準 マクロ経済学の基礎を正しく理解することをもって合格基準とする。学期中に3度提出する課題（20%から30%のウェイト）と期末試験（70%から80%のウェイト）で評価し、上に記載された到達目標に最低限到達していることを合格要件とする。なお、履修取り下げ制度は採用しない。	
授業時間外学習の指示 各回の授業の後に提示される、授業内容に関する練習問題に取り組むこと。	
教科書・参考書 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久、『新版 マクロ経済学』、有斐閣、2016。	
履修条件・関連する科目・注意事項 なし	

授業科目名	マクロ経済学Ⅱ（2単位） Macroeconomics II	開講時限	春学期 火曜日 5時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	齊藤 誠（大学院経済学研究科） Makoto SAITO	office hour	火曜日 4時限
授業の目的 マクロ経済学の基礎を広く深く講義することを目的としている。マクロ経済学ⅠとⅡを通して受講することで、卒業後に「大学でマクロ経済学を学んだ」といっても恥ずかしくないレベルを目指す。経済理論を中心としつつ、マクロ経済統計を経済理論にそって適切に解釈できるトレーニングを積む。経済学の知見を駆使して、現代の経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができるようにする。 This course provides first-year students with wide and deep knowledge of macroeconomics. A student, who takes both macroeconomics I and II with reasonable efforts, can attain the level at which students graduating from a department of economics of an excellent university are supposed to understand macroeconomics. This course presents theory first, but offers an opportunity for students to interpret macroeconomic data along appropriate theory.			
到達目標 マクロ経済学ⅠとⅡを通じて、マクロ経済学の短期、中期、長期的な理論を学ぶとともに、それを、日本や他国のマクロ経済に応用する能力を養う。			

授業の構成

1	マクロ経済学Ⅰの復習
2	開放経済モデルの展開：名目為替レートと実質為替レート
3	開放経済モデルの展開：金利平価と購買力平価
4	開放経済モデルの展開：マーシャル・ラーナー条件
5	開放経済モデルの展開：マンデル・フレミング・モデル
6	労働市場の長期モデル（その1）
7	労働市場の長期モデル（その2）
8	閉鎖経済の長期モデル：成長会計
9	閉鎖経済の長期モデル：ソーローの成長モデル
10	財政の長期的な課題（その1）
11	財政の長期的な課題（その2）
12	金融市場と貨幣市場：債券市場と株式市場
13	金融市場と貨幣市場：貨幣の役割
14	金融市場と貨幣市場：金融政策の諸側面（その1）
15	金融市場と貨幣市場：金融政策の諸側面（その2）
成績評価の方法と基準 マクロ経済学の基礎を正しく理解することをもって合格基準とする。学期中に3度提出する課題（20%から30%のウェイト）と期末試験（70%から80%のウェイト）で評価し、上に記載された到達目標に最低限到達していることを合格要件とする。なお、履修取り下げ制度は採用しない。	
授業時間外学習の指示 各回の授業の後に提示される、授業内容に関する練習問題に取り組むこと。	
教科書・参考書 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久、『新版 マクロ経済学』、有斐閣、2016。	
履修条件・関連する科目・注意事項 マクロ経済学Ⅰを履修のこと。	

授業科目名	計量経済Ⅰ（2単位） Econometrics I	開講時限	秋学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	加藤 尚史（大学院環境学研究所） Takafumi KATO	office hour	授業終了後
授業の目的 現実世界において社会が直面する経済問題を理解して解決するために不可欠とされる計量経済学の基礎的な知識を修得することを目的とする。 This is a first course designed for undergraduate students to obtain a basis knowledge of econometrics, which is fundamental in understanding and solving the economic problems that our society faces in the real world.			
到達目標 経済問題について数理的なモデルを作成して統計的な推測を行ったうえで政策的なインプリケーションを探ることができるようになることを目標とする。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	微分法と積分法
3	確率変数（1）
4	確率変数（2）
5	確率分布（1）
6	確率分布（2）
7	最小2乗法（1）
8	最小2乗法（2）
9	最小2乗法（3）
10	単純回帰モデル（1）
11	単純回帰モデル（2）
12	単純回帰モデル（3）
13	多重回帰モデル（1）
14	多重回帰モデル（2）
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験と課題に基づいて総合的に評価する。計量経済学の基礎的な知識を修得していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度は採用しない。	
授業時間外学習の指示 授業後に講義内容を復習することを期待する。	
教科書・参考書 教科書は指定しない。講義資料を配布する。参考書は必要に応じて指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は設定しない。可能な限り出席することを期待する。	

授業科目名	計量経済Ⅱ（2単位） Econometrics II	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	園田 正（大学院経済学研究科） Tadashi SONODA	office hour	月曜日 1時限 （研究室で質問に応じる）
授業の目的 本講義では、より妥当な仮定の下で統計的推測や仮説検定を行う方法を学び、計量経済Ⅰの学習事項を学んだ後に計量経済学の進んだ方法を理解することを目的とする。 To understand statistical inferences and hypothesis testing methods under more realistic assumptions, this course aims to introduce further topics in econometrics after learning Econometrics I.			
到達目標 ・計量経済Ⅰで学んだ重回帰モデルの仮定の強さを説明できるようになる。 ・計量経済Ⅰで学んだ重回帰モデルの仮定を検定し、棄却された場合には適切に対処できるようになる。			

授業の構成

1	計量経済Ⅰの復習①
2	計量経済Ⅰの復習②
3	不均一分散①
4	不均一分散②
5	計量経済分析の実践
6	時系列データの分析①
7	時系列データの分析②
8	時系列データの分析③
9	パネルデータ分析①
10	パネルデータ分析②
11	操作変数法①
12	操作変数法②
13	因果関係とその大きさの推定①
14	因果関係とその大きさの推定②
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験の素点に基づいて行う。計量経済Ⅰから発展した上記のトピックス（不均一分散、時系列データの分析など）について正しく理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
教科書・参考書 教科書：特に利用しない。参考書：必要に応じて授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 計量経済Ⅰの単位を修得していることが望ましいが、修得していなくても履修可とする。	

授業科目名	政治経済学Ⅰ（2単位） Political Economy I	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	鍋島 直樹（大学院経済学研究科） Naoki NABESHIMA	office hour	月曜日 16:30～17:30
授業の目的 マルクス、ケインズ、カレツキの流れを汲む政治経済学のアプローチにもとづき、資本主義経済の基礎理論、および現代資本主義の構造変化について解説する。資本主義経済の仕組みについての基礎的分析力を養うことを目的とする。 The aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills required to analyze the structure and dynamics of a capitalist economy.			
到達目標 政治経済学のアプローチにもとづき、資本主義経済の仕組みについての基礎的な知識や分析能力を身につける。			

授業科目名	政治経済学Ⅱ（2単位） Political Economy II	開講時限	春学期 月曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	藤田 真哉（大学院経済学研究科） Shinya FUJITA	office hour	火曜日 12時から13時まで 研究室での面談
授業の目的 本授業では、ケインズ派の経済成長論を概説する。また景気循環論や貨幣・金融論など経済成長に関連する周辺のトピックもあわせて紹介する。本授業は、これらの学習を通じて資本主義の動態について基礎的分析力を養うことを目的としている。 In this lecture, I explain the theories of growth and cycle from the viewpoint of Keynesian or post-Keynesian economics.			
到達目標 この授業を通じて、資本主義経済の動態のメカニズムをケインズ派の立場から理解・説明する能力を身に付けることができる。			

授業の構成

1	経済学とはどのような学問か
2	経済学の基礎概念（1）——市場と経済主体
3	経済学の基礎概念（2）——国民所得の諸概念、需要と供給
4	新古典派、ケインズ派、マルクス派の見方（1）——セイ法則と新古典派の見解
5	新古典派、ケインズ派、マルクス派の見方（2）——ケインズのセイ法則批判
6	新古典派、ケインズ派、マルクス派の見方（3）——マルクスのセイ法則批判
7	資本主義的生産の仕組み（1）——資本主義における生産関係
8	資本主義的生産の仕組み（2）——剰余価値の生産
9	資本主義的生産の仕組み（3）——資本の循環
10	価値と価格（1）——価値と生産価格
11	価値と価格（2）——現代寡占経済における価格決定
12	貨幣と利子（1）——貨幣とは何か
13	貨幣と利子（2）——ケインズの「生産の貨幣理論」
14	貨幣と利子（3）——内生的貨幣供給理論
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験（100%）により評価する。履修取り下げ制度を採用しないので、期末試験を受験しない者は「欠席」となる。政治経済学の基礎的な用語や概念を正しく理解したうえで、資本主義経済の仕組みについて適切に説明できることを合格の基準とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業後に教科書やその他の参考文献を読み、知識や理解をさらに深めるよう努めること。	
教科書・参考書 鍋島直樹『現代の政治経済学——マルクスとケインズの総合』（ナカニシヤ出版、2020年）を教科書として使用する。参考文献については講義中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は課さない。	

授業の構成

1	ガイダンス
2	政治経済学とは何か（政治経済学Ⅰの復習）
3	ケインズ経済学の基礎Ⅰ
4	ケインズ経済学の基礎Ⅱ
5	経済成長論Ⅰ
6	経済成長論Ⅱ
7	経済成長論Ⅲ
8	小括
9	景気と物価変動のメカニズムⅠ
10	景気と物価変動のメカニズムⅡ
11	物価と物価変動のメカニズムⅢ
12	貨幣と金融制度Ⅰ
13	貨幣と金融制度Ⅱ
14	貨幣と金融制度Ⅲ
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験（100%）で評価する。 ケインズ派の成長理論について、授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前にレジュメを使って予習すること。	
教科書・参考書 毎回の授業前に NUCT を通じてレジュメを配布する。教科書・参考書については、必要に応じて授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	一般経済史Ⅰ（2単位） Economic History I	開講時限	秋学期 月曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	堀内 義隆（三重大学人文学部） Yoshitaka HORIUCHI	office hour	質問はメールで受け付ける。
授業の目的 この講義では、世界の経済の歴史を学ぶことによって、現代の世界経済が直面する諸課題を、学術的に分析できる基礎的能力を培う。 This course introduces the foundations of world economic history to students taking this course.			
到達目標 古代から現代に至る世界史を経済の動きから理解し、わかりやすい文章で説明できる。			

授業の構成

1	経済史学とは何か
2	農業社会の発展
3	グローバル・ヒストリー
4	大航海時代
5	産業革命
6	「帝国主義」の時代
7	大企業の登場
8	アジアの経済発展（1）
9	大恐慌の時代
10	冷戦体制（1）IMF・GATT体制
11	冷戦体制（2）社会主義体制
12	「新自由主義」の時代
13	アジアの経済発展（2）
14	貧困国の問題
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験により評価する。履修取り下げ制度を採用しない。 経済史の諸概念について、適切な事例を挙げながら説明できることを合格の基準とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前後に参考書の該当部分を読み、疑問点の明確化と理解の確認を行うこと。	
教科書・参考書 参考書：河崎信樹・奥和義編著『一般経済史』ミネルヴァ書房、2018年 参考書：河崎信樹・村上衛・山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020年	
履修条件・関連する科目・注意事項 高校の社会科（世界史・政経）の予備知識があることが望ましいが、一般向けの世界史の概説書（新書・文庫など）を通読するのも良い。 その他のことについては、初回の授業時に詳しく説明する。	

授業科目名	一般経済史Ⅱ（2単位） Economic History II	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	福澤 直樹（大学院経済学研究科） Naoki FUKUZAWA	office hour	火曜日 12:30~13:30 この時間以外にも質問を受け付ける。メール等で申し込むこと。
授業の目的 現代のさまざまな社会経済問題は、その現象だけを見て理解できるものではありません。「経済史」という学問領域の一般的な枠組を学習することを通じて、そうしたさまざまな問題の根源や経緯を歴史的・論理的に捉える素養や視点、方法論を身に付け、それによって現代経済社会を構造的・立体的に認識するための基礎的分析力を育成することがこの講義の目的です。 The various socio-economic issues of today cannot be understood only by looking at that phenomenon. Through studying the general framework of the academic discipline of "economic history", students will acquire the skills, perspectives, and methodologies that historically and logically capture the roots and background of these various problems. The purpose of this lecture is to develop basic analytical skills for structural recognition of the modern economic society.			
到達目標 学生は前近代社会の特徴や生成の必然性を学び、それを通じて現代市場経済社会のあり方をより具体的に認識できるようになる。 近代に向けて前近代的共同体社会がどのように解体するかを理解を深めることにより、現代の経済社会においてなお存在する社会的共同性の意味をより明確に意識できるようになる。 世界各地の近代工業化（或いは従属化）の特徴を学びつつ、それぞれの社会固有の経済的特徴を、その構造面から理解できるようになる。 南北問題・金融危機・格差などが世界的な問題として採り上げられている中、その根源や根本的課題について、アカデミックな認識手法を用いて論理的に議論できるようになる。			

授業の構成

1	経済史における歴史認識のあり方とその意義
2	前近代と共同体／共同体の解体と近代の胎動
3	市民革命と産業革命／近代化とは 自由主義と市場経済
4	近現代市場経済の諸問題と国家介入—市場のコーディネーションと国家
5	福祉のコーディネーションと社会経済
6	信用システムの生成と展開
7	19世紀の世界経済の構造 各国の工業化と世界経済
8	周辺地域の分極化と周辺工業化
9	周辺従属地域における低開発構造の定着
10	19世紀末大不況と各国・各地域の反応 世界経済の不均衡と帝国主義
11	第一次大戦前後の世界経済
12	1930年代大不況 ニューディール・ファシズム・社会主義
13	戦後経済体制の確立 高度経済成長と冷戦体制・南北問題 1970年代以降の低成長期の到来
14	冷戦体制の崩壊と新たな世界経済の構造
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 評価のウエイトは、期末試験 90%、総合的学習状況 10%とし、上記の到達目標について一定程度論述	

できることを合格の基準とします。履修取り下げ制度は採用しません。期末試験を受験しなかった場合、「欠席」となります。
授業時間外学習の指示 毎時間、次回に向けての予習箇所を指示するので、その部分を必ず読んでくること。それを前提として授業を進めます。
教科書・参考書 金井雄一 / 中西聡 / 福澤直樹編『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』第二版, 名古屋大学出版会, 2020 年を教科書とします。また NUCT を用いた教材の配布も行います。
履修条件・関連する科目・注意事項 中学校の社会科レベルの歴史の知識は必要です(高校の世界史ほど詳しい必要はありません)。必要に応じて中・高生時代の教科書, 資料集, またはそれに準じる市販の書籍を用意することを強く勧めます。 This lecture will be held in Japanese.

授業科目名	経営 I (2単位) Management I	開講時限	秋学期 月曜日 4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	浦田 幸宏 Yukihiro WAKUTA	office hour	質問は講義時および講義前後に受け付けます
授業の目的 本講義は、経営学の知見を駆使して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる能力を養うことを目的としています。 The objective of this course is to enable students to grasp and analyze the various issues facing modern corporations and economic society, and to solve them, by making full use of the knowledge of business administration.			
到達目標 本講義を受講することによって、学生は、企業経営や経営組織に関する基本的な考え方を身につけ、経営学の基礎的な理論を理解し、企業経営の課題を説明・分析・解決できるようになることを目標としています。			

授業の構成

1	イントロダクション～経営学をなぜ学ぶのか
2	会社の経営とはどのようなことか～会社経営の基本的な仕組み
3	会社にはどのような形態があるのか～株式会社・所有と経営の分離
4	会社はどのような方針で動いているのか～経営理念と事業ドメイン
5	会社の基本戦略とは何か～競争戦略
6	会社はどのように成長するのか～多角化と範囲の経済性
7	会社はどのように資源を展開するのか～経験効果と PPM
8	中間テスト
9	会社はどのような仕組みで動いているのか～組織構造と組織形態
10	会社はどのように社員を雇用するのか～終身雇用とその功罪
11	会社はどのような報酬を与えるのか～賃金体系と成果主義
12	会社はどのように革新を起こすのか～持続的イノベーションと破壊的イノベーション
13	会社はどのような責任を社会に対して果たすのか～CSR と CSV
14	会社はどのように統治されているのか～コーポレート・ガバナンス
15	期末試験
成績評価の方法と基準 中間テスト (20%) および期末試験 (80%) で評価します。 経営学に関する基本的な概念や用語を正しく理解し、説明できることを合格の基準とします。 履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書の当該箇所を読んでおいて下さい。	
教科書・参考書 上林憲雄・奥林康司ほか著『経験から学ぶ経営学入門 [第2版]』有斐閣ブックス	
履修条件・関連する科目・注意事項 授業中の私語、遅刻厳禁。毎回出席できることが履修条件になります。	

授業科目名	経営Ⅱ（2単位） Management II	開講時限	春学期 金曜日4時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	2年
担当教員名	川崎 綾子 Ayako KAWASAKI	office hour	質問は NUCT のメッセージを通して受け付ける
講義の目的 本講義では、経営学の諸理論を理解し身につけることで、受講生自身の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。具体的には、経済社会や企業社会に潜む問題を積極的に分析し、解決する能力の育成を目指す。 The aim of this course is to enhance your research ability in business administration and leadership by understanding and learning management theories. This course aims to develop ability to actively analyze and solve problems hidden in economic and corporate society.			
到達目標 学生は経済や経営の理論的な用語を駆使し、経済社会が直面する諸課題に、分析的に取り組むことができる。経済学や経営学の総合的な知識を有し、事業活動を行うに際して求められる「リーダー」としての資質や、コミュニケーション能力を備えている。現代社会が直面する経済的な問題の解決に、自ら取り組むことができる。企業や経済社会において、合理的で実践的な意思決定を主体的に行える。また、文献や資料から必要な証拠を収集し、それに基づいた分析的なレポートを作成する能力をもつ。			

また、小テストやレポートに取り組む際に多様な資料を探索したかどうか、そうした資料から必要な証拠を収集した上で、学生独自のアイデア（解決案）を提示できているかどうかを評価基準とする。人や諸課題を統括する「リーダー」の視点で、現実の諸課題を俯瞰的に捉えられているかどうかを確認する。課題に対する解決案を評価する際には、リーダーとして合理的で実践的な意思決定を行えていることを評価基準とする。理論的な用語の定義を自身の言葉で説明することができ、用語を使って現実の事象を独自の切り口で説明できていることを、合格の基準とする。
授業時間外学習の指示 本講義では NUCT 上に講義資料を掲載する。また、理解度や関心の在り所を確認するための小テストも、NUCT に載せておく（講義に関連する用語の定義に関する質問など）。回によって、講義資料を視聴する「前」に取り組む小テストと、視聴「後」に取り組む小テストがあるので、注意すること（小テストのタイトルに「第〇回（予習）」、「第〇回（復習）」と記載する）。
教科書・参考書 教科書は指定しないが、参考書は講義内で紹介する。
履修条件・関連する科目・注意事項 経営Ⅰを受講済みであることが望ましい。

授業内容

1	導入 / 単位取得に関する注意事項
2	経営の目的（1） / 顧客価値の提供
3	経営の目的（2） / 価値提供のための組織づくり
4	組織と不確実性
5	人のマネジメント（1） / モチベーション
6	人のマネジメント（2） / モチベーションとリーダーシップ
7	組織デザインと分業（1） / 外部業者の活用
8	組織デザインと分業（2） / アウトソーシングと製品のモジュラー化
9	組織デザインと統合 / 垂直統合と SPA
10	様々な取引形態 / 取引コストと信頼
11	資源依存理論
12	提携の様々な形 / 製作委員会とプロデューサー
13	製品開発 / プロデューサー、プロダクト・マネジャー
14	商品開発 / コンビニのプライベートブランド商品
15	流通 / コンビニエンス・ストア
成績評価の方法と基準 履修取り下げ制度は採用しない。レポート（100%）に基づいて評価する。 毎回の小テストやレポートの評価基準としては、①現実の事象（現代経済や企業社会に潜む問題）を詳しく分析できていること、②現実の事象を、経済や経営の理論的な用語を使って正しく説明できていること、③現実の諸課題に対する独自の解決案を、分析的に提示できていることを確認する。	

授業科目名	会計Ⅰ（2単位） Accounting I	開講時限	春1期 金曜日1・2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	坂口 順也（大学院経済学研究所） Junya SAKAGUCHI 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims （基礎的分析力） 会計はビジネスの言語であり、それを学ぶことは企業が直面する課題を分析する上で不可欠です。会計学に関する専門科目、特に財務会計や管理会計を学ぶ上で必要となる基礎知識を習得することが、この講義の目的です。具体的には、「日照簿記3級」の合格を目指します。 Accounting is considered as language of business. This course deals with the basics of bookkeeping and accounting.			
到達目標 Course Objectives 業種・職種にかかわらず経営に携わる上で身に付けておくべき商業簿記に関する必須の基本知識が習得でき、簡単な財務諸表の作成ができるようになります。 The goal of this course is to understand accounting cycle, and to be able to prepare basic financial statements.			

履修条件・関連する科目・注意事項
 履修条件は要しません。逆に、この講義で学習する内容は、会計Ⅱ、財務諸表Ⅰ・Ⅱ、さらに財務会計、管理会計など会計学に関連するすべての科目の基礎となりますので、毎回出席し、問題集の記入を行うようにして、知識を確実なものとしてください。簿記は、知識を積み上げてゆくことが不可欠なので、今後の学習に大きな影響を及ぼします。

授業の構成

1	簿記の目的 What is bookkeeping?
2	仕訳と転記 Journal entry and posting
3	試算表の作成 Preparing trail balance
4	商品売買 Accounting for sales
5	手形 notes
6	有価証券 financial instruments
7	決算仕訳 Adjusting entries and closing entries
8	主要簿・補助簿 Journal, ledger, and other accounting books
9	帳簿組織 Accounting information system
10	売上原価 Cost for goods sold
11	減価償却 Depreciation
12	費用・収益の見越・繰延 Accruals and deferrals
13	精算表の作成 Preparing worksheet
14	損益計算書と貸借対照表 Income statement and balance sheet
15	まとめと評価 Summary and evaluation
成績評価の方法と基準 学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価します（100%）。簿記3級レベルのの計算方法と概念を正しく理解していることを合格の基準とします。授業時間内に随時実施する課題についても成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価します。	
授業時間外学習の指示 毎回、講義の進度に合わせて、問題集の記入を進めてください。特に欠席した場合は、NUCT 上のビデオ講義を聴講するようにしてください。	
教科書・参考書 教科書『簿記3級テキスト・問題集・解答集』（大原出版） 参考書『日商簿記3級・過去問題集』（大原出版）	

授業科目名	会計Ⅱ（2単位） Accounting II	開講時限	秋1期 水曜日1・2時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	1年
担当教員名	姜 周亨（大学院経済学研究科） Juhyung KANG 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	月曜日(Monday) 13:00-14:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims（基礎的分析力） 会計はビジネスの言語であり、それを学ぶことは企業が直面する課題を分析する上で不可欠です。会計学に関する専門科目、特に財務会計や管理会計を学ぶ上で必要となる中級レベルの商業簿記を習得することが、この講義の目的です。具体的には、「財務諸表Ⅰ（工業簿記）」との併用により、「日照簿記2級」の合格をめざします。 Accounting is considered as language of business. This course deals with the intermediate bookkeeping and accounting.			
到達目標 Course Objectives 中級レベルの商業簿記を習得し、会計基準に従って基本的な財務諸表を作成することができるようになります。 The goal of this course is to understand how accounting information are prepared, and to be able to prepare financial statements.			

教科書・参考書 教科書『簿記2級（商業簿記）テキスト・問題集・解答集』（大原出版） 参考書『日商簿記2級。過去問題集』（大原出版）
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件ではありませんが、会計Ⅰを修得済みであることを前提に講義は進められます。計算問題が多いので電卓が必要です。なお、講義中に重要な連絡をすることがありますので、講義に欠席した場合には、そのような連絡事項について、各自の責任で把握しておいて下さい。

授業の構成

1	簿記一巡 Accounting cycle
2	無形資産 Intangibles
3	引当金 Provisions
4	資本金 Accounting for equity
5	負債会計 Accounting for liabilities
6	財務諸表 Financial statements
7	本支店会計 Accounting for branches
8	帳簿組織 Accounting information system
9	収益認識 Revenue recognition
10	特殊商品売買 Instalment sales etc.
11	消費税 Accounting for consumption tax
12	研究開発費 Research and development expense
13	有価証券 Financial instruments
14	固定資産 Fix assets
15	まとめと評価 Summary and evaluation
成績評価の方法と基準 学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価します（100%）。日照簿記2級商レベルの計算方法と概念を正しく理解していることを合格の基準とします。授業時間内に随時実施する課題についても成績評価の際に参考にします。履修取り下げ制度を適用しません。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価します。	
授業時間外学習の指示 毎回、講義の進度に合わせて、問題集の記入を進めてください。特に欠席した場合は、NUCT上のビデオ講義を聴講するようにしてください。	

授業科目名	財務諸表Ⅰ（２単位） Financial Statements I	開講時限	春２期 金曜日１・２時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	１年
担当教員名	姜 周亨（大学院経済学研究所） Juhyung KANG 古賀 正夫 Masao KOGA	office hour	木曜日 14 時 - 15 時（要予約：各 質問に対応） By appointment
授業の目的 この講義では、経営学・会計学に必要な考え方を身につけるため、日商簿記検定２級レベルの工業簿記の知識を習得し、公認会計士などの国家試験への足がかりとすることを目的とする。また、日商簿記検定２級の受験準備にもなる。 The purpose of this course is to learn fundamental skills of industrial bookkeeping (i.e., the official business skill test of bookkeeping, 2 nd grade), in order to acquire basic understandings for accounting field (e.g., costing and management accounting).			
到達目標 授業終了時に学生は、工業簿記（日商簿記２級レベル）の計算方法と基礎概念を説明できる。			

授業の構成

1	工業簿記と原価計算・原価・工業簿記の勘定体系（個別原価計算）
2	材料と材料費・材料の購入原価の計算と記帳・材料費の計算と記帳
3	労務費・賃金給料の支払額の計算・賃金給料の消費額の計算
4	経費会計・製造間接費会計
5	個別原価計算・個別原価計算における仕損・工企業の財務諸表
6	部門別計算・工場会計の独立
7	工業簿記の勘定体系（総合原価計算）
8	仕掛品の評価・材料の投入方法
9	正常減損・正常仕損・工程別総合原価計算
10	組別総合原価計算・等級別総合原価計算
11	標準原価計算
12	損益分岐点分析・直接原価計算
13	総合演習（１）
14	総合演習（２）
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 学習到達度の観点から課題（小テストを含む）を随時実施し、これをふまえて最終の試験で評価する（100%）。工業簿記の方法と概念を理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。最終の試験を受験しない場合、欠席と評価する。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業後の復習のみならず、授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 教科書 『簿記２級（工業簿記）テキスト・問題集・解答集』『ステップアップ問題集』 参考書 必要に応じて、授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。授業で電卓を使用するので準備すること。	

授業科目名	財務諸表Ⅱ（２単位） Financial Statements II	開講時限	春学期 木曜日 3 時限
科目区分	専門系科目 専門基礎科目	配当年次	２年
担当教員名	坂口 順也（大学院経済学研究所） Junya SAKAGUCHI	office hour	要予約（各質問に対応） By appointment
授業の目的 この授業は、経営学・会計学に必要な考え方を身につけるため、財務諸表に関する基本的な概念を習得することを目的とする。具体的には、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の基本的な構造や、代表的な財務指標について学習する。 The purpose of this course is to learn basic concepts related to financial statements (Balance Sheet, Income Statement and Cash Flow Statement), in order to acquire the necessary understandings for business administration and accounting fields.			
到達目標 授業終了時に学生は、財務諸表の相互関連性や代表的な財務指標の意味を説明できる。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	Fundamentals (1)
3	Fundamentals (2)
4	Fundamentals (3)
5	Connections (1)
6	Connections (2)
7	Connections (3)
8	前半のまとめ
9	Connections (4)
10	Connections (5)
11	Connections (6)
12	Using Financial Statements (1)
13	Using Financial Statements (2)
14	Using Financial Statements (3)
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 授業への参加・小テスト（30%）と期末試験（70%）で評価する。代表的な財務諸表の構造と相互の関連性、財務情報の基本的な読み方を理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用せず、期末試験を受験しない場合は欠席とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 教科書 John Tracy, <i>How to Read a Financial Report: Wringing Vital Signs Out of the Numbers</i> , Wiley (the newest Edition). 参考書 必要に応じて、授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 会計学関連の科目の履修が望ましいが、未履修でも受講可能。	

授業科目名	経済政策（2単位） Economic Policy	開講時限	春学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	松本 陸（大学院環境学研究科） Mutsumi MATSUMOTO	office hour	木曜 3 時限（メールにて事前 にアポイントメントを取るこ と） z42622a@cc.nagoya-u.ac.jp
授業の目的 本授業では地域を財政の視点から考える。我が国の地方財政の現状を概観するとともに、地方財政に関する経済理論を紹介する。国・地方の機能分担、地方歳出構造、地方税、補助金、地方債の各項目について、制度と制度を支える経済理論を学ぶ。			
The purpose of this course is to learn local public finance institutionally and theoretically. The topics include the fiscal functions of the local public sector, local public expenditures, local taxes, intergovernmental transfers and local debts.			
到達目標 ・受講生が地方財政制度に関する基礎知識を習得する ・受講生が地方財政制度を検討・評価する理論的知識を習得する			

授業の構成

1	ガイダンス：地方財政論について
2	地方財政の概要（1）：国・地方の財政関係；地方財政計画
3	地方財政の概要（2）：近年の地方財政改革
4	国・地方の機能分担（1）：国・地方財政機能分担の現状と理論
5	国・地方の機能分担（2）：地域間競争の理論分析
6	地方歳出と行財政改革（1）：性質・目的別経費の構造
7	地方歳出と行財政改革（2）：市町村合併と広域連携；地方行革
8	地方税（1）：地方税制度の全体像；課税自主権と地方税への制約
9	地方税（2）：地方税原則；主な地方税の仕組み
10	財政移転（1）：特定・一般補助金の区分；国庫支出金
11	財政移転（2）：地方交付税
12	財政移転（3）：地方譲与税；三位一体改革
13	地方債（1）：地方債計画と地方債制度
14	地方債（2）：財政健全化法；地方債の経済分析
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 ・講義内容に関する期末試験を実施する。合格基準は、地方財政に関する基礎理論や制度の基本的枠組みを理解していることである。 ・履修取り下げ制度を採用しない。期末試験を受験しない場合には「欠席」とする。 ・コロナ対策のために、事前のアナウンスの上、期末レポートに切り替える可能性がある。	
授業時間外学習の指示 講義前に、レジュメに目を通しておくこと。全てのレジュメ（本レジュメ・資料レジュメ）を、（できれば講義開始までに）NUCT 経由で配布する予定である。また、関係する文献・資料と併せて理解を深める工夫をすること。	

教科書・参考書 教科書は指定しない。授業はレジュメに基づく（NUCT にアップする予定）。参考になる文献・資料は以下の通り 参考書 テキスト関係： 「新しい地方財政論」、中井英雄，齋藤慎，堀場勇夫，戸谷裕之，有斐閣アルマ； 「地方財政学」、中井英夫，有斐閣； 「基本から学ぶ地方財政」、小西砂千夫，学陽書房； 「地方財政理論入門」、佐藤主光，新世社 資料関係： 「地方財政白書」毎年発行，総務省，国立印刷局。 「地方財政白書ビジュアル版」，総務省 HP。 総務省 HP（>政策>地方行財政）。 内閣府 HP（>内閣府の政策>地方分権改革）。
履修条件・関連する科目・注意事項 履修要件は要さない。しかしながら、財政・公共経済の履修者を想定している。また、授業には近代経済学理論の応用部分があるので、ミクロ・マクロ経済学に関する基本的知識が求められる（余剰分析や乗数理論等）。関係科目の未履修者は、本講義と同時に履修して欲しい。

授業科目名	農業経済（2単位） Agricultural Economics	開講時限	秋学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	園田 正（大学院経済学研究科） Tadashi SONODA	office hour	月曜日1時限 （研究室で質問に応じる）
授業の目的 本講義では、農業経済学や開発経済学の基本モデル、日本で実施された農業政策、日本農業の現状に関する理解を深め、日本の農業における政策、農家の対応、その帰結を理解することを目的とする。 To understand agricultural policies, farmers' responses to the policies, and the results in Japan, this course aims to introduce some basic models in agricultural and development economics, actual agricultural policies, and current situations in Japanese agriculture.			
到達目標 ・日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする。 ・これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにする。 ・日本の農業について、自分なりの考えをもつことができるようにする。			

授業の構成

1	現代世界の農業問題
2	食料問題の理論①
3	食料問題の理論②
4	農業調整問題の理論
5	農業成長と食料問題の克服①
6	農業成長と食料問題の克服②
7	経済発展と農業問題の転換①
8	経済発展と農業問題の転換②
9	先進国段階の農業保護
10	価格政策の破綻
11	構造政策の挫折①
12	構造政策の挫折②
13	農家モデル①（兼業行動の分析）
14	農家モデル②（農家行動の特異性の分析）
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験の素点に基づいて行う。食料問題、農業調整問題、近年の農業政策について正しく理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
教科書・参考書 教科書：速水佑次郎・神門善久『農業経済論』岩波書店、参考書は必要に応じて指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学Ⅰの単位を修得していることが望ましいが、修得していなくても履修可とする。	

授業科目名	労働経済（2単位） Labor Economics	開講時限	秋学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝（大学院経済学研究科） Noritaka KUDOH	office hour	講義終了後または予約による。 質問はNUCTで随時受付。
授業の目的 この講義では、労働市場に関する指標や統計を理解し、関連する理論を習得し現実のデータに応用する。特に「フロー・アプローチ」という新しい分析手法に力を注ぎ、国際比較を通じて日本の労働市場の特徴を明らかにし、労働市場に関する制度や政策など、現代の経済社会が直面する諸課題について論じることを目的とする。 This course focuses on the flow approach to the aggregate labor market by learning labor market statistics and mathematical models to explain the facts.			
到達目標 ・伝統的需要供給分析を応用した労働市場分析を図と数式を用いて遂行できる。 ・労働市場に関する主要な統計を自ら利用できる。 ・フロー・アプローチについてデータを用いて解説でき、対応する数理モデルの骨子を説明できる。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	労働需要
3	労働供給
4	労働供給の実際
5	日本の労働生産性
6	労働市場のフロー分析
7	マッチングと有効求人倍率
8	雇用創出とジョブ・フロー
9	交渉と賃金
10	摩擦的労働市場の均衡
11	景気変動と労働市場
12	賃金格差
13	雇用の二極化
14	業務自動化と労働市場
15	まとめ
成績評価の方法と基準 授業の到達目標の達成度を毎週の小テスト（100%）によって判定し、基礎概念の理解、データの理解、ならびに理論分析の正確性という観点で成績を付けて単位を付与する。100点満点換算で60点以上を合格要件とする。 履修取り下げ制度を採用しないため、小テストの受験率が50%未満の場合は自動的に「欠席」とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に Web サイトから講義資料を得て事前に目を通す。毎回の授業後に講義内容を再現し、NUCTにて小テストを受験する。	
教科書・参考書 教科書：指定なし。 参考書：『労働経済学』（宮本弘暁）新世社、2018年 その他：NUCTを通じて配布します。	
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学ⅠならびにⅡとマクロ経済学ⅠならびにⅡの履修が望ましいが、未履修でも受講可能。	

授業科目名	産業組織（2単位） Industrial Organization	開講時限	秋学期 火曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	花崗 誠（大学院経済学研究科） Makoto HANAZONO	office hour	アポイントメント又はメール
授業の目的 企業行動を説明する様々な原理を学び、市場環境が企業行動にどのような影響を与えるか、市場経済はどのように機能するかについて理解を深めるとともに、関連するビジネスエコノミクス、国際経済、金融、公共経済等に応用するための能力を育成することを目的とする。 The objective is to learn the principles of firm behavior, in relation to the interplay of market environment and firm behavior, and the working of market economy. This course is also aimed at fostering ability to apply the principles to business economics, international economics, financial economics, public economics, etc.			
到達目標 市場におけるさまざまな企業行動を、企業の目的合理性や戦略的な意思決定の観点からわかりやすく説明することができる。市場構造が決定される要因について、議論することができる。			

授業の構成

1	産業組織論の基礎概念と方法
2	独占企業の行動① 基礎
3	独占企業の行動② 複数財の生産と価格差別
4	垂直的企業関係①
5	垂直的企業関係②
6	企業競争① 価格競争、キャパシティ制約
7	企業競争② 数量競争
8	市場競争の社会的評価
9	差別化の競争① 水平的差別化
10	差別化の競争② 垂直的差別化、広告
11	企業の共謀
12	参入阻止
13	知的財産
14	二面市場
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験で評価する。教科書の章末問題と同程度の問題を数問課し、50%以上の評価を合格基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義の前後に該当する教科書の範囲を読む、また講義スライドを復習するなどして内容の理解に努めること。講義後に教科書の章末問題を解くこと。	
教科書・参考書 教科書：花崗「産業組織とビジネスの経済学」有斐閣ストゥディア 参考書：小田切「産業組織論—理論・実証・政策」有斐閣	
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学 1, 2 の履修が望ましいが、同等の知識があれば受講可能。This course is offered in Japanese	

授業科目名	国際経済（2単位） International Economics	開講時限	秋学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	柳瀬 明彦（大学院経済学研究科） Akihiko YANASE	office hour	随時（要予約）
授業の目的 国際経済学の基礎理論を学ぶと同時に、現実の国際経済に関する様々な話題について、それらの問題の所在がどこにあり、どのように分析すべきかを理解することを通じて、基礎的分析力を身につける。 This course is designed to provide students with basic analytical ability in international economics.			
到達目標 国際経済学の基礎理論を理解し、現実の国際経済の諸問題をこれらの理論に基づいて分析し判断を下すことができるようになる。			

授業の構成

1	ガイダンスとイントロダクション
2	貿易の発生要因1：比較優位
3	貿易の発生要因2：規模の経済(1) 独占的競争
4	貿易の発生要因2：規模の経済(2) 企業の異質性
5	貿易の発生要因3：国際寡占競争
6	貿易の発生要因についてのまとめと補足
7	特殊要素モデル
8	ヘクシャー＝オリーン・モデル
9	様々な貿易モデルについてのまとめと補足
10	貿易政策はなぜ行われるのか1：交易条件動機
11	貿易政策はなぜ行われるのか2：利益団体
12	GATTとWTO
13	貿易政策のその他のトピック（幼稚産業保護、戦略的貿易政策）
14	貿易政策についてのまとめと補足
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 原則として期末試験の成績に基づいて判断する（60点以上が合格）。授業中に得た知識や概念を用いて、与えられた問題について計算や証明等を通じて正しく解答できることを、合格の基準とする。履修取り下げ制度を適用しない。詳しくは1回目の講義のときに説明します。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義後に必ず復習をすること（ノートの見直し、参考図書を読む、問題演習など）。	
教科書・参考書 教科書：ジョン・マクラレン（著）柳瀬明彦（訳）『国際貿易』文真堂 参考書：初回の講義で紹介いたします。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は特に課さないが、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎知識を前提として講義を進めるので、復習しておくことが望ましい。	

授業科目名	財政（2単位） Public Finance	開講時限	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	柳原 光芳（大学院経済学研究科） Mitsuyoshi YANAGIHARA	office hour	火曜日 16:30~18:00 研究室等で質問を受け付ける。
授業の目的 日本経済を俯瞰し、政府の財政状況を理解することと、政府の財政政策、特に歳入面に焦点を当て、マクロ・ミクロ経済学の視点から、理論的に受講生が理解できるようになることです。経済理論を現実の財政問題に応用することで、その問題を自らの力で捉え、解決を考えられるようになることをめざし、講義では自主的探求力の育成が図られます。 The objective of this course is to grasp Japan's economic circumstance and to understand Japan's public finance, especially revenue side, from the viewpoints of both macro and micro economics. By applying economic theories to real problems on public finance, students are expected to solve them by themselves.			
到達目標 日本の財政問題を日本経済の中での確に捉え、その解決について適切な経済理論を応用することによって、論理的かつ実証的に提示することができる。			

授業の構成

1	日本の経済環境
2	日本経済に対する見方
3	市場の役割
4	政府の役割
5	国家財政の予算制度
6	財政指標
7	租税概論
8	租税の実務
9	租税原則と税制度
10	消費課税：制度
11	消費課税：理論
12	所得税：制度
13	所得税：理論
14	法人税
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 日本の財政制度および現状を、日本の経済環境の中で位置づけた上で正しく理解することを、合格基準とする。期末試験（60%）と講義内で課される課題（40%）で評価する。なお、履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 各回の授業の後に提示される、授業内容に関する練習問題に取り組むこと。	
教科書・参考書 教科書：森田雄一・柳原光芳編著『財政入門』、中央経済社、2019、ISBN 4502303615。 参考書：講義内で随時指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 マクロ経済学 I, II, ミクロ経済学 I, II の単位修得が望ましいが、それらの科目の内容が理解されていれば履修可能。	

授業科目名	金融（2単位） Money and Finance	開講時限	秋学期 木曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	清水 克俊（大学院経済学研究科） Katsutoshi SIMIZU	office hour	講義後 または 木曜日 5時限（事前メール）
授業の目的 現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる能力を身につけるため、金融市場・金融機関の機能や金融政策の役割などについて基礎的知識を獲得し、金融経済学の理解を深めることを目的とする。 For the purpose of acquiring the ability that a student can understand, analyze, and solve issues facing modern corporations and societies/economies, this course introduces the basic knowledge about the roles of financial market, financial institutions, and monetary policy and help students deepen the understandings of financial economics.			
到達目標 本講義の到達目標は (1) 金融経済学の基本的な原理を習得する (2) 現実の金融取引や金融市場の動向について簡単な理解と応用ができるようになる (3) 金融政策や利子率、インフレ率について簡単な理解と応用ができるようになる である。 The goals of this course are (1)to acquire the basic principles of financial economics, (2)to understand practical financial transactions and trends of financial market, (3)to understand monetary policy, interest rates, and inflation rates.			

授業の構成

1	金融取引と金融機関・金融市場：概観	Overview: Financial Economics
2	金融資産の評価	Valuations of financial assets
3	貯蓄と資産選択	Portfolio theory of financial asset 1
4	リスク資産の価格	Portfolio theory of financial asset 2
5	企業の実物投資	Valuation of investments
6	企業の資金調達	Debt and equity
7	企業の財務戦略とガバナンス	Corporate governance
8	リスク・ヘッジと金融資産	Risk hedge
9	金融市場と金融機関	Financial markets and institutions
10	金融仲介機関の機能	Role of financial institutions
11	金融制度と規制	Financial system and regulations
12	マネーと金融政策	Money and monetary policy
13	金融政策とインフレ率および利子率	Inflation rates and interest rates
14	マクロ経済と金融政策	Monetary policy and macroeconomy
15	国際金融	International finance
成績評価の方法と基準 ミニテスト（約30%）および最終試験（またはレポート）の点数の加重平均により、総合的に評価する。上記の目的、到達目標、授業の構成の内容について、基本的な概念や用語を理解し、それらを用いて論述できることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用する。		

授業時間外学習の指示 ①教科書を読み、コンセプト・チェックや本章のポイントで要点をおさえる、②教科書に準拠した練習問題に取り組む、③ミニテストの内容を再度確認する、④web上の参考資料をダウンロードして読む。
教科書・参考書 教科書 金融経済学入門（清水克俊、東京大学出版会） 参考書 金融経済学（清水克俊、東京大学出版会）
履修条件・関連する科目・注意事項 関連する専門基礎科目を履修していることが望ましいが、未履修でも受講可能。

授業科目名 公共経済（2単位） Public Economics	開講時限 春学期 金曜日 1時限
科目区分 専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次 3・4年
担当教員名 玉井 寿樹（大学院経済学研究科） Toshiki TAMAI	office hour アポイントメントによる （質問方法：E-mail, NUCT）
授業の目的 公共経済学とは主として公共部門の経済活動について一般的な観点から分析する経済学の応用分野であり、多様な経済問題（市場の失敗、政府の失敗、所得格差など）の解決策を考察する学問分野である。本講義では、現代の経済社会が直面するこれらの諸課題に挑戦・解決する能力を養うために、公共部門が果たすべき役割と基本的な考え方への理解を深めることを目的とする。 Pubic economics is one of the applied economics and the study of the public sector. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of public economics.	
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 公共経済学の概念や基本的な考え方についてわかりやすく説明することができる。 現代の経済社会が直面する様々な課題について公共経済学の概念を用いて問題の本質を理解し解決策を提示することができる。 	

授業の構成

1	公共経済学とは
2	市場のメカニズム
3	公共財(1)
4	公共財(2)
5	公共選択
6	外部性
7	自然独占
8	価格規制
9	地方財政
10	所得再分配(1)
11	所得再分配(2)
12	租税
13	年金
14	経済の安定化
15	財政の持続可能性

成績評価の方法と基準

- 成績評価方法：演習（30%）及び期末試験（70%）で評価する。
- 成績評価基準：公共経済学に関する基本的な概念や用語を正しく理解していること、講義により得た知識や概念を用いて経済問題に対する解決策や公共部門の役割について論述できることを合格の基準とする。
- 履修取り下げ制度：採用しない。

授業時間外学習の指示

- NUCTを通じて講義資料を配布するので、事前に資料を準備・予習しておくこと。
- 授業後には教科書・授業資料付属の練習問題に取り組むこと。

教科書・参考書

教科書：小川光・西森晃 著『公共経済学』中央経済社（2015年）[ISBN] 9784502135613

参考書：寺井公子・肥前洋一 著『私たちと公共経済（有斐閣ストゥディア）』有斐閣（2015年） [ISBN] 9784641150201 奥野信宏・八木匡・小川光 編『公共経済学で日本を考える』中央経済社（2017年） [ISBN] 9784502210815
履修条件・関連する科目・注意事項 ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい（未履修でも受講可能）。

授業科目名	現代資本主義（2単位） Contemporary Capitalism	開講時限	春学期 木曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	藤田 真哉（大学院経済学研究科） Shinya FUJITA	office hour	火曜日 12時から13時まで 研究室での面談
授業の目的			
本授業の前半では、ケインズやカレツキの理論を批判的に継承したポスト・ケインズ派経済学の基礎及び応用理論の一部を概説する。また後半では、マクロ経済理論に制度分析の視角を取り込んだレギュレーション・アプローチの経済発展論を紹介する。本授業は、これらの学習を通じて現代における資本主義諸国の構造と動態に関する基礎知識を応用する能力を養うことを目的としている。 In this lecture, I explain the structure and dynamics of contemporary capitalist countries from the viewpoints of post-Keynesian economics and French régulation approach.			
到達目標			
この授業を通じて、現代資本主義諸国の構造と動態をポスト・ケインズ派及びレギュレーション派の立場から理解・説明する能力を身に付けることができる。			

授業の構成

1	ガイダンス
2	ポスト・ケインズ派経済学とは何か
3	価格理論と分配理論Ⅰ
4	価格理論と分配理論Ⅱ
5	機能的所得分配と個人的所得分配Ⅰ
6	機能的所得分配と個人的所得分配Ⅱ
7	機能的所得分配と有効需要Ⅰ
8	機能的所得分配と有効需要Ⅱ
9	資本主義経済の不安定性
10	レギュレーション・アプローチとは何か
11	フォーディズム
12	アフター・フォーディズム
13	資本主義の多様性論Ⅰ
14	資本主義の多様性論Ⅱ
15	まとめ
成績評価の方法と基準	
期末試験（100％）で評価する。 現代資本主義諸国の構造と動態について、ポスト・ケインズ派およびレギュレーション派の価格理論・分配理論・経済変動論をベースにして適切に論述できることを合格の基準とする。 履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示	
毎回の授業前にレジュメを使って予習すること。	
教科書・参考書	
毎回の授業前に NUCT を通じてレジュメを配布する。教科書・参考書については、必要に応じて授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項	
履修条件は要さない。	

授業科目名	経済学史 (2単位) History of Economic Theories	開講時限	春学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	西本 和見 (中京大学経済学部) Kazumi NISHIMOTO	office hour	メールで対応
授業の目的 この講義では、主に18世紀から現代に至るまでの経済学の発展の歴史を、理論と歴史の両面から学びます。経済学の学問的特徴は、「科学としての経済学」と「モラル・サイエンスとしての経済学」という二側面から捉えられ、本講義はその観点から進められます。それによって、経済学および社会科学を学ぶための基礎的な視点を身につけるとともに、複数の系譜がある経済理論の全体と、それぞれの問題意識を把握した上で、現代における諸問題に取り組むための準備を行います。This course introduces the history of economics from the 18th century to today. In this course, economics is characterized from aspects of “economics as an exact science” and “economics as moral science.”			
到達目標 本講義を受けることによる到達目標は以下の通りである。 ・経済学の発展の歴史を包括的に理解し説明することができる。 ・時代背景を踏まえつつ主要な経済学者の理論と意義を説明することができる。 The goals of this course are to ・Obtain basic knowledge about the historical development of economics ・Explain the theory and significance of each economist with historical background			

授業時間外学習の指示 授業で使用する教材に予め目を通しておくこと。授業内容を深めるために、参考書で紹介している教科書の他に、初回授業時に紹介する教材を利用して予習復習を行うことが望ましい。
教科書・参考書 各授業で配布される資料を教材とする。 参考書：早坂忠編著『経済学史』ミネルヴァ書房、1989年 松嶋敦茂他編著『現代経済学史の射程』ミネルヴァ書房、2019年
履修条件・関連する科目・注意事項 履修を考えている者は、初回授業におけるガイダンスを受講することが望ましい。

授業の構成

1	イントロダクション
2	ポリティカル・エコノミーの成立—重商主義
3	経済学における古典的体系(1)—重農主義
4	経済学における古典的体系(2)—アダム・スミス
5	経済学における古典的体系(3)—リカード
6	経済学における古典的体系(4)—J. S. ミル
7	古典的体系への批判者(1)—マルクス
8	古典的体系への批判者(2)—マルクス
9	限界革命期の経済学(1)—ジェヴォンズ
10	限界革命期の経済学(2)—ワルラス、メンガー
11	ケインズとその周辺(1)—マーシャル
12	ケインズとその周辺(2)—ケインズ
13	1930年代以降の経済学
14	そして現代へ
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末レポートで評価する。 経済学の発展の歴史についての知識を得ていること、それを包括的に理解し説明することができること、時代背景を踏まえつつ主要な経済学者の理論と意義を説明することができることを合格の基準とする。 履修取下げ制度を採用しない。	

授業科目名	社会思想史（2単位） History of Social Thoughts	開講時限	秋学期 月曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	隠岐 さや香（大学院経済学研究科） Sayaka OKI	office hour	月曜5限
授業の目的 社会思想の重要な著者とその思想について、その思想が生まれた社会史的な背景も踏まえつつ紹介する。社会科学的思想の発展の経緯を踏まえ、「社会」や「経済」そのものを構想する社会思想がいかんして生まれたのか、それが近代化にとっていかなる意味を持ったのかについて考察する。 This course provides a survey of the history of social thoughts, especially focusing on the development of the key concepts to understand our modern world, such as “society” and “economy.”			
到達目標 本講義を一通り受講することで、社会思想史の基礎教養が身につく。その上で、現代の経済・社会や、社会問題について自主的に思考・考察する力の基盤が形成される。			

授業の構成

1	イントロダクション：「社会」が誕生するまで
2	前近代における人間・国家・宇宙：アリストテレスとプラトン
3	マキャヴェリと近代的人間
4	宗教改革と労働・資本主義
5	ホッブズとロックの古典的「社会契約」説
6	モンテスキューとルソー：文明社会と人民主権論
7	ケネーとスミス：政治経済学の確立と農業・商業
8	二重革命の時代とサン＝シモン、オーギュスト・コント
9	英国の思想状況と哲学的急進主義：ベンサムとミル父子
10	社会主義とフェミニズム思想
11	ドイツの思想状況と社会主義・共産主義
12	帝国主義と科学主義の時代
13	「全体主義」批判の思想：ケインズとハイエク
14	「新自由主義」の時代とポストモダン
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準 平常点30%、期末試験70%の割合で評価する。平常点には授業参加と二、三回ほどのコメントペーパー提出などが含まれる。履修取り下げ制度は適用しない。 社会思想史上の主要人物について適切に説明できること、社会思想における基本的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。
授業時間外学習の指示 毎回、次回のために必要な予備学習を指示する。
教科書・参考書 教材は授業時にプリントの形で配付する。参考書は初回授業の時に指定する。
履修条件・関連する科目・注意事項 高校レベルの世界史の知識があることが望ましいが、未履修でも受講は可能

授業科目名	日本経済史（2単位） Japanese Economic History	開講時限	秋学期 月曜日4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山口 明日香（名古屋立大学大学院経済学研究科） Asuka YAMAGUCHI	office hour	講義終了後。質問はメールで受け付けます。
授業の目的 歴史的な視点から現代の経済社会が直面する諸問題を考える力を身につけるため、近世から現代までの日本経済の歴史を理解することを目的とする。 The aim of this course is to understand the history of Japanese economy and enhance the ability to think about today's economic problems from a historical perspective.			
到達目標 ・近世から近代の日本経済の歴史像をつかめるようになる。 ・現在の日本経済の諸問題がどのようにつくられてきたのかについて、長期的視点から説明できる。			

授業の構成

1	イントロダクション：経済史とは
2	徳川幕府の成立と国際環境
3	徳川時代の政治と経済：17世紀～18世紀前半
4	徳川時代の政治と経済：18世紀後半～19世紀前半
5	幕末開港とその経済的影響
6	明治新政府の成立と経済財政政策
7	大久保政権の成立から企業勃興期の日本経済
8	日清戦争から日清戦後経営期の日本経済
9	日露戦争から第一次世界大戦期の日本経済
10	第一次世界大戦後から昭和金融恐慌期の日本経済
11	井上財政から高橋財政期の日本経済
12	戦時統制期から戦後復興期の日本経済
13	高度成長期の日本経済
14	ポスト「高度成長」期以降の日本経済
15	まとめ

成績評価の方法と基準 中間レポート（30%）と期末レポート（70%）で評価する。 履修取下げ制度を採用しない。期末レポート未提出の場合は「欠席」とする。 近世～現代の日本経済のマクロ的動向や主要な出来事を、授業や教科書・参考書などから得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。
授業時間外学習の指示 講義レジュメを事前に配布するので、予め目を通した上で出席すること。また、教科書・参考書の該当箇所を読み、理解を深めること。
教科書・参考書 教科書 杉山伸也『日本経済史：近世・現代』岩波書店、2012年 参考書 浜野潔ほか『日本経済史1600-2015』慶應義塾大学出版会、2017年 参考書 沢井実・谷本雅之『日本経済史：近世から現代まで』有斐閣、2016年 参考書 三和良一『概説日本経済史：近現代』第3版、東京大学出版会、2012年 ※ 講義中に一々参照しませんので、購入するか否かは各自の自由とします。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。
履修条件・関連する科目・注意事項 高校レベルの日本史の知識があることが望ましいが、未履修でも受講可能。

授業科目名	西洋経済史（2単位） European Economic History	開講時限	秋学期 金曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	伊藤 カンナ（大学院経済学研究科） Kanna ITO	office hour	金曜 12:00-13:00（メールで 予約してください）
授業の目的 この講義では、西洋経済史の基礎知識を習得し、批判的思考を養うことを目的とする。そのために、今日私たちが慣れ親しんでいる資本主義経済システムの発展と、世界市場が形成されていく過程を学ぶ。大航海時代以降のヨーロッパの国民国家形成と諸国がとった経済政策を検証し、さらに18世紀半ば以降のイギリスにおける工業化の展開と、それが人々の生活や世界経済に与えた影響を検討する。 This course is aimed at acquiring a better knowledge of economic and social changes by studying the interaction of evolving economic institutions with related social, political, cultural, and religious institutions; and facilitating critical thinking. Central topics to be considered include the development of commercial and financial institutions during the early modern periods, the causes and consequences of the British Industrial Revolution and the development of an integrated international economy, or “early globalization”. This class will provide: 1) a general overview of important events and periods in the economic history of Europe; 2) an analysis of important historical events from an economic viewpoint.			
到達目標 ヨーロッパの歴史的経験を学ぶことで、以下の4分野の知識とスキルを発展させることができよう。 1) 長期の経済的变化（経済活動の農業から工業へのシフトや世界経済の一体化等）を解釈できる 2) 長期の経済成長において様々な経済間での主要な相違を比較できる 3) 経済成長にとって技術的優位や制度・組織的变化がどのように貢献したかを説明できる 4) 近代（過去数百年）の経済発展の背後にある経済的プロセスの特徴を説明できる			

授業の構成

1	西洋経済史の視座
2	宗教改革
3	国民国家の形成
4	大航海時代とスペインの盛衰
5	オランダの経済発展
6	イングランドの経済発展
7	資本主義世界経済システム
8	英国の工業化（1）前提条件
9	英国の工業化（2）農業革命
10	英国の工業化（3）プロト工業化
11	英国の工業化（4）技術革新と工場制
12	工業化と社会問題
13	世界に広がる工業化
14	ボックス・ブリタニカ
15	まとめ
成績評価の方法と基準 課題や小テスト（60%）、期末試験（40%）で評価する。中世~近代の西洋経済史の出来事を授業や教科書・	

参考書などから得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は採用しない。
授業時間外学習の指示 ①「一般経済史」のアウトラインを復習しておくこと。②講義の中で指示した予習課題や宿題等に取り組むこと。③毎日、国際経済情勢をチェックすること。これらを前提として授業を進める。予習と復習の状況は、毎回の授業で行う小テストで確認する。
教科書・参考書 参考書として、馬場哲 / 山本通 / 廣田功 / 須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012年。金井雄一 / 中西聡 / 福澤直樹『世界経済の歴史—グローバル経済史入門』名古屋大学出版会。必要に応じて、授業中に紹介する。
履修条件・関連する科目・注意事項 高校レベルの世界史の知識があることが望ましい。必要に応じて高校時代の教科書、資料集、また市販されているそれに準じる書籍で学習すること。

授業科目名	ファイナンス（2単位） Finance	開講時限	春学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中島 英喜（大学院経済学研究科） Hideki NAKASHIMA	office hour	開講後アナウンスします
授業の目的 本講義は、証券市場における標準的なファイナンス理論（ポートフォリオ理論、資本資産価格モデル）の基礎と資産市場の歴史の理解を通じて、この分野における受講生の課題発見能力と課題解決能力の育成を図ることを目的とする。 This course presents the foundations of finance (modern portfolio theory and capital asset pricing model) and a history in financial markets.			
到達目標 この授業の終了時には、学生は以下の説明能力を獲得していることを到達目標とする：不確実性下における投資意思決定、ポートフォリオ選択、リスク資産の価格付け、代表的な金融資産市場の歴史。 At the end of the course, students should have basic knowledge about finance: investment decision making, optimal portfolio selection, pricing under uncertainty and empirical foundations about important financial markets.			

授業の構成

1	イントロダクション、基本的な用語（特にキャッシュフロー）の定義
2	確実なキャッシュフローの価格付け（金利と債券価格とその利回り）
3	演習（金利と債券）、投資とリターン
4	株式投資と効率的市場仮説
5	不確実性下の意思決定と期待効用仮説
6	分散投資のリスク低減効果、1期間のポートフォリオ選択問題
7	安全資産と分離定理
8	等質期待仮定と資本市場線
9	CAPM と証券市場線、システマティックリスクとノンシステマティックリスク
10	演習（不確実なキャッシュフローの価格付け）
11	演習（CAPM を使った株価の導出）
12	資産市場の分類
13	資産市場の歴史、日本の資産価格の推移（株価指数、金利、為替レート）
14	バランスシートを使った資産価格推移のシミュレーション
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準 期末試験を100%として、授業への貢献を適宜加点。素点合計の100点満点換算で60点以上を合格要件とする。試験の成績評価基準は上記の到達目標に関する理解の程度による。期末試験は講義内容を広くカバーし、かつ難易の幅を持たせることで左記理解の程度を測る。なお、履修取り下げ制度は採用しない。期末試験を受験しなければ「欠席」と判断する。	
授業時間外学習の指示 講義に用いる教材は下記サイトで予め公開する。受講生は授業前に一通り目を通しておくのが望ましい。 http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~nakashima/FE/index.htm	
教科書・参考書 テキストは指定しない。適宜教材を提供する。参考図書：(1) 砂川伸幸「コーポレート・ファイナンス入門」（日経文庫）、(2) 小林孝雄、他「新・証券投資論（理論編）」（日本経済新聞社）。	
履修条件・関連する科目・注意事項 確率・統計の基礎知識を身に付けていること。	

授業科目名	経営労務（2単位） Personnel Management	開講時限	秋学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	2年
担当教員名	鈴木 智之 Tomoyuki SUZUKI	office hour	質問は講義終了後、適宜受け付ける。
授業の目的 現代組織で働く人間を取り巻く諸問題を検討するのに必要な人的資源管理論における基礎的な概念の理解を深めることを目的とする。 This course aims to introduce basic knowledge about human resource management to approach social labor problems.			
到達目標 現代組織における人的資源管理の基礎的な概念をわかりやすく論述できるようになる。また、人的資源管理への理解を踏まえて、自分自身の就職や労働のあり方を考え、論述できるようになる。			

授業の構成

1	人的資源管理の概要とフレームワーク
2	人事評価制度
3	職能資格等級制度
4	コンピテンシーと行動評価制度
5	労働者のパーソナリティ構造と評価要素
6	目標管理と業績評価制度
7	昇進管理
8	就職試験・就職活動と採用管理（1）
9	就職試験・就職活動と採用管理（2）
10	配置・異動管理
11	教育訓練管理
12	事例検討（1）
13	事例検討（2）
14	事例検討（3）
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準 期末試験（100%）で評価する。講義で説明した人的資源管理論の基礎的な概念を正しく理解していること及び講義で得た知識を用いて、人的資源管理、就職や労働に関する課題への回答を論述できることを合格の基準にする。 履修取り下げ制度を採用しない。そのため、期末試験を受験しなければ「欠席」となる。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義前にレジюмеを予め読んでおくこと。また、毎回レジюмеをもとに復習すること。	
教科書・参考書 毎回の授業前にNUCTを通じてレジюмеを配布する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	生産管理（2単位） Production Management	開講時限	春学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励（大学院経済学研究科） Rei HINO	office hour	講義終了後、適宜受け付ける。
授業の目的 生産管理を行う上で必要な知識とその解法を身につけるため、生産管理における基本的な課題の理論的な理解を深めることを目的とする。本授業では、自動車に代表される工業製品の製造を行う生産システムを対象に、現代の企業が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる能力の育成を行う。 This course will introduce the basic topics and techniques to manage the manufacturing activities appropriately. The purpose of this lecture is to enhance the management abilities in manufacturing.			
到達目標 ・生産管理の対象となる基本的な活動と互いの関係をわかりやすく説明できる。 ・生産管理を行うときの課題の代表的な解法とその使い方を理解し、計画案を示すことができる。			

授業の構成

1	生産システムの歴史と基本構造
2	製品企画と設備配置
3	工程計画
4	需要予測と緩衝
5	生産計画（生産指示）
6	資材所要量計画と押し出し方式
7	かんばんと引っ張り方式
8	スケジューリング
9	TOCとラインバランス
10	プロジェクト管理
11	コンカレントエンジニアリング
12	生産システムのモデル化とシミュレーション
13	品質管理
14	設備保全
15	総括

成績評価の方法と基準

・生産管理のために必要な設問に対して、適切な解法の提示と計画案を示すことができるかどうかを期末試験(100%)により評価する。履修取り下げ制度を採用しない。期末試験を受験しなければ「欠席」とする。
 ・オンラインでの授業の場合、課題(100%)により評価を行うことがあり得る。

授業時間外学習の指示

身のまわりの工業製品の作り方について興味を持つこと。

教科書・参考書

教材用プリントを配布し、授業の進度に応じて参考書を紹介する。

履修条件・関連する科目・注意事項

履修条件は要さない。

授業科目名	マーケティング（2単位） Marketing	開講時限	秋学期 水曜日1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	2年
担当教員名	山口 景子（大学院経済学研究科） Keiko YAMAGUCHI	office hour	講義後（メールにて事前予約）
授業の目的 マーケティングとはなにか。それは、企業が自社の製品やサービスを売り込まなくても、消費者が自ら製品・サービスのブランド名を好意的に記憶し、その特徴を理解し、喜んで継続的に財布を開いてくれる状態をつくるための考え方と、そこから生み出される手段です。モノや情報があふれる現代社会において、企業が成長しつづけるためには、優れたマーケティング戦略を立案・実行できるマーケターが必要とされています。本講義では、マーケティングの考え方と基礎事例を学びながら、企業が直面するマーケティングの諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる能力を育成することを目的とします。			
What is marketing? Briefly speaking, marketing is the concept and process to get consumers to memorize brand names, understand the brands' characteristics, and keep their minds open to those brands with delight. To expand the business under harsh competition in recent years, companies require brilliant marketers who can execute effective marketing plans. This course aims to develop the abilities to identify, analyze, and solve marketing issues that companies have by learning the basic marketing concepts and those cases.			
到達目標 ・マーケティングの基本概念および専門用語の意味をわかりやすく説明できる ・新しいビジネスプランに対して、簡単なマーケティング戦略および計画を設計でき、それらを企画書の形で提案できる			

授業の構成

1	イントロダクション+ グループワークのためのチームビルディング
2	事業機会と事業領域の選択
3	標的市場の選択
4	市場データ分析
5	製品対応
6	講義内グループワーク
7	価格対応
8	コミュニケーション対応
9	流通チャネル対応
10	消費者行動分析
11	競争分析・競争対応
12	グループワーク振り返り
13	市場との対話（1）
14	市場との対話（2）
15	まとめと評価

<p>成績評価の方法と基準</p> <p><u>成績評価の方法</u> 各講義回で課される課題（30%）、グループで取り組む中間レポート（30%）および 期末試験（40%）の割合で評価する。</p> <p><u>成績評価の基準</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 各講義回で課される課題においては、教科書の知識を正しく理解できているか、その知識を適切に活用できているか、解答の独自性・新規性などを評価する。 中間レポートにおいては、授業中に得た知識や概念を用いて、新たなビジネスプランとそのプランを成功させるためのマーケティング戦略について論述できることを合格の基準とする。 期末試験においては、マーケティングに関する基本的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。 <p>履修取り下げ制度は採用しない。中間レポートが未提出 または 期末試験（または期末試験に相当する期末レポート）が未受験の場合は「欠席」とする。</p>
<p>授業時間外学習の指示</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業前に教科書の指定箇所を読み、グループワークに取り組んだ上で授業に臨んでください。 授業では教科書の内容に関する質問への回答 および グループワークのフィードバックを中心に行います。授業後にフィードバック内容を自身の学習・ワークに反映させる時間を必ず設けてください。 なにより、身の回りのマーケティング事例に興味・関心をもつこと、書籍、新聞や Web ニュースなどで（マーケティングに関わらず）世の中の出来事にアンテナをはることを日々実行してください。
<p>教科書・参考書</p> <p><u>教科書</u> 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦, 2016. 『マーケティング戦略 第5版』有斐閣.</p> <p><u>参考書</u> コトラー & ケラー, 2014. 『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント基本編 第3版』丸善出版.</p>
<p>履修条件・関連する科目・注意事項</p> <p>講義資料を NUCT にて事後配布する（原則）。</p> <p>外部講師招聘の都合上、授業の構成が変更になることがある。</p>

授業科目名	経営組織（2単位） Organization and Management	開講時期	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	犬塚 篤（大学院経済学研究科） Atsushi INUZUKA	office hour	質問は講義中にすること（毎回、質問のタイミングを用意する）
授業の目的 本講義では、組織の中で自ら課題を発見し、解決できる力を身に付けるため、経営学の基本である環境適応について深く理解することを目的とする。前半では、戦略論を中心に、外部環境と組織目標の関わりについて学ぶ。後半は、そうした組織目標の実現に必要な組織論について学ぶ。 The course will provide knowledge of the basics of management for the purpose to find and/or solve problems in an organization. The topics in this course include strategic management (in the first half) and the organizational management (in the latter half).			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 環境適応を阻む主要因が何かを理解できる 外部環境（競争環境）の変化を正しく分析できる 組織現象（内部環境の問題）が生じる原因が何かを同定できる 			

授業の構成

1	経営組織（序論）：「環境適応」とは何か
2	外部環境適応（1）：線を引け
3	外部環境適応（2）：四方を見よ
4	外部環境適応（3）：三つのアプローチ
5	外部環境適応（4）：二つの対立軸
6	外部環境適応（5）：一步を踏み出せ
7	中間討議（ケーススタディ A）
8	中間討議（ケーススタディ B）
9	内部環境適応（1）：条件適合理論
10	内部環境適応（2）：組織設計の原則
11	内部環境適応（3）：インセンティブ体系
12	内部環境適応（4）：モチベーション理論
13	内部環境適応（5）：リーダーシップ論とその限界
14	経営理論ではなく、経営学的思考法を身に付けるということ
15	まとめと評価

成績評価の方法と基準

- 試験（70%）＋中間レポート（30%）－欠席点＋発言点の素点に基づき、60点（環境適応を阻むメカニズムに関する最低限の理解ができたこと）以上をもって合格とする。欠席点はその回数に応じて、2回（5%）、3回（15%）、4回（30%）、5回（50%）、6回以上（75%）をそれぞれ試験の素点から減ずる。発言点は、1コマあたり1～3点を加点する。
- 履修取り下げ制度を適用しない。中間レポート未提出の者または試験未受験者は、「欠席」とする。
- 代返（代筆）やエスケープは、依頼者と援助者の双方を即不合格とする。中間レポートの共同作業も同様に、双方を大幅減点扱いとする。講義中にスマホやゲーム等をする者は、その回を欠席扱いとする。

授業時間外学習の指示 ・毎回の講義前に、当該回の講義ノートに目を通しておくこと。 ・中間レポートを課す（提出期限は、第6回の講義終了時まで）。
教科書・参考書 ・教科書：なし。講義ノート等を、NuCT (https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal) より配布する。 ・参考書①：M.E. ポーター（著）、土岐・服部・中辻（翻訳）『新訂 競争の戦略』ダイヤモンド社、1995。 ②：野中郁次郎『経営管理』日本経済新聞社、1983。
履修条件・関連する科目・注意事項 ・原則として、毎回出席できることを履修要件とする。 ・過去の受講生のコメントや講義動画を HP に公開しているので、履修決定をする際の参考にされたい。 http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~inu/classes.html

授業科目名 経営戦略（2単位） Management Strategy	開講時期 秋学期 月曜日 2時限
科目区分 専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次 3・4年
担当教員名 宮崎 正也（大学院経済学研究科） Masaya MIYAZAKI	office hour 月曜日 1時限 （事前予約による対応）
授業の目的 ・経営者等のリーダーに必要とされる意思決定の能力を高めるため、経営戦略の論理とその分析手法を習得することを本講義の目的とする。The objective of this lecture is to master the logic of business strategy and its analysis methods in order to enhance the decision-making ability required of leaders.	
到達目標 ・「経営戦略の論理と分析手法をわかりやすく説明できる」 ・「戦略的思考を日常生活で実践できる」	

授業の構成

1	事業戦略の考え方
2	他社との「違い」をつくる
3	コストを引き下げる
4	専門性を身につける
5	顧客ニーズの違いに対応する
6	顧客の「片付けるべき用事」を手伝う
7	製品寿命を管理する
8	業界標準を活用する
9	「出会い」の場を提供する
10	新製品を創り出す
11	業務範囲を仕分ける
12	知的財産を活用する
13	競争優位が持続する理由
14	事業環境の分析・選択・操作
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 ・「課題レポート」を4割、そして「期末試験」を6割の割合で総合したものを受講者の評点とする。ただし、緊急事態等で対面型講義からオンライン講義に移行するときは、課題レポートの評価割合を増やすことで機動的に対応する。 ・経営戦略論に関する基本的な概念や用語を正しく理解していること、ならびに授業中に得た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。 ・履修取り下げ制度を採用しないため、期末試験未受験者は「欠席」評価とする。	
授業時間外学習の指示 受講者は、NUCT から講義スライドのファイルを入手して、予習・復習で活用すること。	
教科書・参考書 教科書：『コア・テキスト 事業戦略』 新世社、宮崎正也 著 参考書：『デマンド・サイド経営学』 中央経済社、宮崎正也 著	
履修条件・関連する科目・注意事項 ・経済学部の基礎科目レベルの知識が求められるが、それらに関する科目の授業を履修していなくても受講可能。 ・「課題レポート」未提出の場合は、期末試験の受験資格を失うので気をつけること。	

授業科目名	財務会計（2単位） Financial Accounting	開講時限	秋学期 金曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	2年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） NOGUCHI Akihiro	office hour	月曜日(Monday) 12:00-13:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
授業の目的 Course Aims 中級レベルの財務会計を学ぶことを通じて、財務報告制度に関する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができるようにすること。 This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand intermediate financial accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
到達目標 Course Objectives 1. 財務会計の理論に基づき、会計処理を理解できること。 2. 中級レベルの会計処理について、財務会計の理論を応用して、説明できること。 The goals of this course are to ・ be able to understand and explain accounting treatments based on accounting theory. ・ be able to understand and explain some advance contents of bookkeeping.			

授業の構成

1	Accounting Information System
2	Inventories
3	Property Plant and Equipment
4	Intangible Assets
5	Current Liabilities
6	Goodwill
7	Non-Current Liabilities
8	Equity
9	Accounting for Income Taxes
10	Revenue Recognition
11	Lease
12	Financial Instruments
13	Pensions and Postretirement Benefits
14	Standards and Conceptual Framework
15	Summary
成績評価の方法と基準 原則として、NUCT 上の課題 50%と出席票 50%で評価します。それに加え、A+及び A 評価を確定するため NUCT 上で小テストを行います。中級レベルの財務会計の知識を習得していることを合格の基準とします。履修取り下げ制度を採用しません。期日までに出席票を提出しない場合は欠席と評価します。 Assignment in NUCT (50%), Attendance Sheet (50%). For “A+” and “A”, there will be an additional test using NUCT. Understanding contents of the standard intermediate accounting course will be required for passing. Not submitting the Attendance Sheet will be graded as “absent”.	
授業時間外学習の指示 教科書を読んだ上で、講義に出席して下さい。NUCT の課題及び期限の確認は不可欠です。	

Please read the textbook before attending the lecture. Please visit NUCT website regularly so that you do not miss the submission deadline.
教科書 Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, <i>Intermediate Accounting</i> , IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018. 日本公認会計士協会東海会編『実務から学ぶ会計のトレンド』中央経済社 2019年。 参考書 （いずれも最新版を参考にする必要があります。） 桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門』有斐閣アルマ。 伊藤邦雄著『新・現代会計入門』日本経済新聞出版社。
履修条件・関連する科目・注意事項 講義は日本語で行われます。ただし、英語で記述された教科書を用い、NUCT 上の課題も英語で出題します。履修条件ではありませんが、会計Ⅰ・会計Ⅱレベルの知識は履修に不可欠です。シラバスの変更については、講義中にアナウンスします。 Lecture will be conducted in Japanese.

授業科目名	管理会計（2単位） Management Accounting	開講時限	秋学期 金曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	2年
担当教員名	小沢 浩（大学院経済学研究科） Hiroshi OZAWA	office hour	木曜日 13:00-14:00
授業の目的 会計の基礎的な概念と会計情報を使った意思決定と業績評価の方法を身につけることを目的とする。 The purpose of this course is to learn basic concepts of accounting and the methods of decision making and performance measurement using accounting information.			
到達目標 授業終了時に、管理会計の概念や手法を使って経営の問題を説明できるようにすること。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	原価の概念・分類、いろいろな損益計算書
3	製品原価計算：個別原価計算とABC
4	短期利益計画：CVP分析（基礎）
5	短期利益計画：CVP分析（応用）
6	経済性の意思決定：関連原価計算（応用）
7	プロダクト・ミックス
8	長期的意思決定：ライフサイクル原価計算・資金の時間価値
9	標準原価管理：標準の設定
10	CVP分析の解釈
11	総合予算の作成
12	変動予算による業績の評価：差異の分析（直接費）
13	変動予算による業績の評価：差異の分析（間接費）
14	変動予算による業績の評価：差異の分析（差異の解釈）
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 授業最終回のテスト(100%)で評価する。期末試験は、授業中に解説した知識や内容を正しく理解していることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は適用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に講義資料の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 教科書は指定しない。 参考書：小沢 浩著『詳解コストマネジメント』同文館出版。 講義資料はNUCTに掲載する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 会計Ⅰ・Ⅱ、財務諸表Ⅰ・Ⅱを履修済みであることを前提に授業を進めるが、未履修でも受講可能。	

授業科目名	監査（2単位） Auditing	開講時限	春学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹（大学院経済学研究科） SEMBA, Hu Dan	office hour	講義後 (予めメールでの質問を推奨)
授業の目的 企業をとりまく株主、債権者等の利害関係者の意思決定に際して、経営者が提供する情報が偏りのない公正なものか否かは極めて重要な問題である。本講義では、経営者が利害関係者に対して提供する財務情報の信頼性の保証手段である監査の基礎について講義し、受講者に学習させ、経営学の一角を占める監査の知識を身につけ、現代の経済社会が直面する監査の諸課題に理解を深め、解決に挑む知力を育むことを目的としている。This lecture is designed as to let participants understand/think deeply the core important concepts of auditing field, and is expected to help participants have solutions/ the ways to find solutions for the future challenges in practical modern economic social.			
到達目標 (授業終了時に学生は、) 監査に関する基本的な仕組と方法および成り立ちを含む基礎知識についてご自身によってわかりやすく説明できる。			

授業の構成

1	監査の定義	イントロー「監査」とは？
2		監査の必要性
3	監査結果の開示	監査報告書からみた監査の意義と限界の理解と
4		監査の発展
5	法定監査	金融商品取引法監査と会社法監査
6		会社法とコーポレート・ガバナンス
7	リスク・アプローチ & 監査実施プロセス	リスク・アプローチ（1）
8		リスク・アプローチ（2）
9		監査基準とリスク・アプローチ
10		リスク・アプローチと監査実施基準
11		リスク評価と監査手続
12		内部統制（1）
13		内部統制（2）
14		監査の実施と監査意見表明等
15	まとめと評価	
成績評価の方法と基準 講義への参加度合いおよび講義中における問題演習の完成状況（50%）、試験の結果（50%）で評価する。履修取り下げ制度を適用しなく、本講義では試験を受験しない者は、「欠席」とする。講義中の内容についての演習問題を適切に回答できること、講義中の内容あるいは講義中指定の内容に関するコンテンツを適切に説明できることを合格の基準とする。		
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書等の指定箇所を読んでおくこと。		
教科書・参考書 教科書：伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論』（最新版）同文館出版。 参考書は必要に応じて、授業中に指示する。		
履修条件・関連する科目・注意事項 1. 講義は、簿記を含む会計学の基礎知識があることを前提に進める。2. 授業内容について実施状況に応じて変更することがある。3. よければ、事前にNUCTまで講義を進める上で利用するレジュメを各自プリントアウトして利用すること。		

授業科目名	経営分析（2単位） Business Analysis	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	小沢 浩（大学院経済学研究科） Hiroshi OZAWA	office hour	木曜日 13:00-14:00
授業の目的 会計の基礎的な概念と経営分析の手法を身につけることを目的とする。 The purpose of this course is to learn basic concepts of financial statements and the method of business analysis.			
到達目標 授業終了時に、自ら公表されている財務報告書を入力し、分析できるようにすること。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	財務諸表
3	比率の分析（流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率）
4	回転期間の分析（売掛債権回転期間、棚卸資産回転期間、製造原価明細書）
5	資金調達分析（有利子負債回転期間、買掛債務回転期間）
6	収益性の分析（総資本利益率、自己資本利益率）
7	利益増減要因分析
8	分析の練習
9	中間まとめと評価
10	CVP 分析
11	税、加重平均資本コスト率
12	キャッシュフロー分析
13	資金調達、資金繰り表
14	粉飾
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 授業内の2回のテスト(100%)で評価する。期末試験は、授業中に解説した知識や内容を正しく理解していることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度は適用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に講義資料の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 教科書は指定しない。 参考書：佐藤裕一著『ビジュアル経営分析の基本』日本経済新聞社。 講義資料は NUCT に掲載する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 会計Ⅰ・Ⅱ、財務諸表Ⅰ・Ⅱを履修済みであることを前提に授業を進めるが、未履修でも受講可能。	

授業科目名	国際会計（2単位） International Accounting	開講時限	春学期 木曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	向 伊知郎（愛知学院大学経営学部） Ichiro MUKAI	office hour	講義後教室にて
授業の目的 ・この授業では、グローバル企業の多くが採用している国際財務報告基準(IFRS)の内容および日本の会計基準との相違について学びながら、IFRSの適用が財務情報に及ぼす影響について学びます。 ・The aim of this course is to help students acquire an understanding of the International Financial Reporting Standards (IFRS) and the effect of applying IFRS on firm's financial information.			
到達目標 ・IFRS と日本の会計基準の相違についての知識、およびグローバル企業の比較財務諸表分析を行う能力を身につけることができる。 ・The goals of this course are to (1) Understand the differences between IFRS and Japan's accounting standards, and (2) Obtain an ability to analyze financial statements prepared by IFRS.			

授業の構成

1	イントロダクション～会計基準の国際的収斂への動向 (1) ～ Introduction: International Convergence of Accounting Standards (1)
2	会計基準の国際的収斂への動向 (2) International Convergence of Accounting Standards (2)
3	IFRSの基礎的特徴 (1) Conceptual Framework for Standard-Setting (1)
4	IFRSの基礎的特徴 (2) Conceptual Framework for Standard-Setting (2)
5	収益認識の会計 (1) Revenue Recognition (1)
6	収益認識の会計 (2) Revenue Recognition (2)
7	金融商品の会計 (1) Financial Instruments (1)
8	金融商品の会計 (2) Financial Instruments (2)
9	固定資産の会計 Non-current Assets
10	リース取引の会計 (1) Lease (1)
11	リース取引の会計 (2) Lease (2)
12	減損の会計・企業結合の会計 (1) Impairment of Assets & Business Combinations (1)
13	企業結合の会計 (2)・連結財務諸表の会計 Business Combinations (2) & Consolidated Financial Statements
14	のれんの会計 Goodwill

15	まとめと評価 Summary and Course Evaluation
成績評価の方法と基準 ・期末試験(70%)、レポート(30%)で評価する。 ・IFRS 設定の意義、その特徴および財務情報への影響について適切に説明できることを合格の基準とする。 ・履修取り下げ制度は採用しない。 ・Grading will be decided based on the total score of Final Exam (70%) and Paper & Quiz (30%). Each passing requirement is "C" rating or higher. ・Grading criterion are to be able to explain the significance of IFRS, its features compared to Japan's accounting standards, and its impact on financial information.	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に講義資料 (http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html) および教科書各章を読んでおくこと The students are expected to read the text and the assigned materials before a class. Materials can be downloaded from the website: http://star.gmob.jp/mukai_i/index.html .	
教科書・参考書 (教科書・Text Book) 向伊知郎 (2019) 『ベーシック国際会計』中央経済社。 (参考書・Reference Book) IASB. (2019) <i>IFRS</i> . IASB. (企業会計基準委員会・財務会計基準機構監訳 (2019) 『IFRS 基準』中央経済社。)	
履修条件・関連する科目・注意事項 会計に関する基礎知識を有していることが推奨されます。 この授業は日本語で提供されます。 It is recommended that students have basic knowledge of accounting. This course will be taught in Japanese.	

授業科目名	経営情報 (2単位) Management Information	開講時限	秋学期 木曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科関連専門科目・経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科) Rei HINO	office hour	講義終了後、適宜受け付ける
授業の目的 ビジネス活動を行う上で必要なデータ分析の手法を身につけるため、データの理論的な扱い方に対する理解を深めることを目的とする。本授業では、多変量解析の基礎的な手法について学び、目的に応じたデータの処理と分析の方法を習得することで、合理的で実践的な意思決定を行う能力の育成を図る。 This course will introduce the basic topics and techniques to analyze the data for decision making by multivariate analysis. The purpose of this lecture is to enhance the analysis abilities in management.			
到達目標 ・多変量解析に用いられる基礎的な手法についてわかりやすく説明できる。 ・入手した情報の解析を行い、データ間の因果関係の判定および将来の値の推測を行うことができる。			

授業の構成

1	線形代数の基礎(1)
2	線形代数の基礎(2)
3	相関分析(1)
4	相関分析(2)
5	単回帰分析(1)
6	単回帰分析(2)
7	重回帰分析(1)
8	重回帰分析(2)
9	判別分析(1)
10	判別分析(2)
11	主成分分析(1)
12	主成分分析(2)
13	因子分析(1)
14	因子分析(2)
15	総括
成績評価の方法と基準 ・多変量解析に関する設問に対して、適切な値を求めることができるかどうかを期末試験(100%)により評価する。履修取り下げ制度を採用しない。期末試験を受験しなければ「欠席」とする。 ・オンラインでの授業の場合、課題(100%)により評価を行うことがあり得る。	
授業時間外学習の指示 授業で説明した例題については自分でも計算を行うこと。	
教科書・参考書 教材用プリントを配布し、授業の進度に応じて参考書を紹介する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない	

授業科目名	経済政策特論 (2単位) Advanced Course of Economic Policy	開講時限	春学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	萬行 英二 (大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター) Eiji MANGYO	office hour	By appointment. Please bring questions to a meeting set by appointment.
授業の目的 This course introduces previous empirical studies in the fields of development/health/labor economics. First, we cover the importance of establishing causality in empirical research. Next, we look at how previous good studies try to achieve causality. After taking this course, interested students can read papers in this field by her/himself and, hopefully, develop own research ideas in this field. ①実証研究における因果研究の重要性を理解し、②開発、健康および労働経済における優れた文献が、どのように因果関係を実証しようとしているか知見を得ることを目標とする。			
到達目標 Students are expected to understand the difference between correlation and causality and to have decent knowledge about research designs and econometric methods taken by previous good studies in economics to establish causality. 本コース終了時に学生は、相関と因果関係の違いを理解し、既存文献が因果関係を立証するために行っているリサーチ・デザインや計量経済の手法について知識を得ることができる。			

授業の構成

1	Human capital issues 1: Health and development (人的資本1:健康と開発)
2	Human capital issue 2: Return to health (Econometric identification problems 1) (人的資本2:健康への投資:実証研究で問題となるポイント1)
3	Human capital issue 3: Return to education (Econometric identification problems 2) (人的資本3:教育への投資:実証研究で問題となるポイント2)
4	Human capital issue 4: Return to education (Econometric identification problems 3) (人的資本4:教育への投資:実証研究で問題となるポイント3)
5	The effect of income on health: a welfare program in the US (所得が健康に与える影響:米国における福祉プログラム)
6	The effect of income on health: lottery prizes as an exogenous source of income variation (所得が健康に与える影響:外生的所得変動としての宝くじ賞金)
7	The relative income hypothesis (相対所得仮説)
8	The effect of macroeconomic shock on health and education (マクロ経済ショックが健康や教育に与える影響)
9	The effect of environment on health: early-life exposure to polluted air (環境が健康に与える影響:生後すぐに大気汚染に晒される影響)
10	The effect of parental time on infant health (両親の労働時間が乳児の健康に与える影響)
11	Ethnic complementarities in mathematics research productivity (数学研究の生産性において共著者が共通の文化や言語を持つと生産性の向上につながるか)
12	The effect of a large-scale school construction program on education and wages (大規模学校建設プログラムが教育と賃金に与える影響)
13	The role of gene-environment interactions (遺伝子と環境の相互作用)
14	The effect of information on human behavior (情報が人々の行動に与える影響)
15	The effect of vehicle ownership on fertility: unintended consequence of vehicle restrictions (自家用車所有が出生率に与える影響:自家用車所有制限の予期せぬ結果)

成績評価の方法と基準 Term paper (100%) is used to measure the level of understanding on the concepts covered in the course. Term paper should summarize a previous study's contributions to the literature. To pass this course, a student's term paper needs to make clear the contributions of a previous study of her/his choice to the literature. Students need to submit a Course Withdrawal Request Form when requesting course withdrawal. "F" will be given if you do not submit the Course Withdrawal Request Form in the case of no submission of the term paper. 学生の学習到達度を評価するため、学期末レポート(既存文献の学術的貢献をまとめる)(100%)の提出が必要。合格要件は、期末ペーパーにおいて既存文献が果たした学術的貢献を明確にすることとする。履修取り下げ制度を採用する。
授業時間外学習の指示 Students are expected to complete required reading specified in the course syllabus. シラバスに指定された必読文献を読む。
教科書・参考書 No required textbook. We closely look at a paper per lecture. Reading materials in this course are listed in the course syllabus to be distributed in the first lecture. 教科書はなく、講義で議論する文献は講義初日に配布するシラバスにリストされている。1講義で1つのペーパーを詳しく見る。 Reference: Wooldridge. Introductory Econometrics: A Modern Approach (参考書)
履修条件・関連する科目・注意事項 Prerequisites: Basic microeconomics, Basic statistics, Introductory econometrics including fixed-effects (FE) and instrumental-variable (IV) estimations. If you have not leaned FE/IV estimation, study beforehand Chapter 14 (fixed-effects estimation) and Chapter 15 (Instrumental-variable estimation) in Wooldridge (Reference mentioned above). This course will be taught in English.

授業科目名	農業経済特論 (2単位) Advanced Course of Agricultural Economics	開講時限	春学期 月曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	園田 正 (大学院経済学研究科) Tadashi SONODA	office hour	月曜日1時限 (研究室で質問に応じる)
授業の目的 本講義はテキストにしたがい、発展途上国の農家のマイクロ経済行動の理論・実証分析の方法について学び、農業経済学における基礎的・発展的方法を理解することを目的とする。 To understand basic and advanced methods in agricultural economics, we use the textbook listed below and study theoretical and empirical methods for microeconomic behavior of farm households in developing countries.			
到達目標 ・ 途上国農家の農業生産活動に関するマイクロ経済的基礎を理解する。 ・ 途上国農家の農業生産活動の分析を行うための実証法を理解する。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	需要分析①
3	需要分析②
4	需要分析③
5	生産物供給と要素需要①
6	生産物供給と要素需要②
7	供給反応 (期待形成と部分調整) ①
8	供給反応 (期待形成と部分調整) ②
9	リスクと農家行動①
10	リスクと農家行動②
11	リスクと農家行動③
12	農家モデル①
13	農家モデル②
14	農家モデル③
15	総復習
成績評価の方法と基準 期末試験の素点に基づいて行う。農家行動に関するマイクロ経済モデル、関連する実証分析の方法について正しく理解していることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義後に、講義内容について復習を行い、講義全体の中での位置づけを確認するなどすること。	
教科書・参考書 教科書: Elisabeth Sadoulet and Alan de Janvry (1995) <i>Quantitative Development Policy Analysis</i> , Johns Hopkins University Press, 参考書は必要に応じて指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 基本的な計量経済学とマイクロ経済学の知識をもつことが望ましいが、もたない場合でも履修してよい。	

授業科目名	労働経済特論 (2単位) Advanced Course of Labor Economics	開講時限	春学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	工藤 教孝 (大学院経済学研究科) Noritaka KUDOH	office hour	By appointment. You may ask (quick) questions at NUCT.
講義の目的 This course is designed to build your research ability in the field of macro-labor economics. The course focuses on search-matching frictions in the aggregate labor market. The goal is to catch up with the frontier of business cycle research.			
到達目標 After this course, students should be able to (1) understand the frontier of research in the field of labor market fluctuations over the business cycle; (2) write their own computer codes to replicate existing quantitative results found in professional articles; and (3) develop their own research.			

授業内容

1	Review of Dynamic Optimization
2	Job Search and Optimal Stopping
3	Basic DMP Model
4	Bargaining Theory
5	Extensions
6	Large Firms
7	Business Cycle Facts
8	Business Cycle Facts
9	Unemployment Volatility Puzzle
10	Unemployment Volatility Puzzle
11	Hours of Work over the Business Cycle
12	Hours of Work over the Business Cycle
13	Labor Market Participation
14	DSGE with Search Frictions
15	DSGE with Search Frictions
成績評価方法 There will be 5 or more assignments, in which students are asked to replicate (empirical and theoretical) results in some leading research papers. The course grade will be determined by the average of the grades of all assignments. To pass the course, you must earn C (which is about 60 out of 100) or above for each assignment. Quantitative questions require computational packages such as dynare on Octave, R, and Maxima, and perhaps Python. While graduate students and undergraduate students are evaluated differently, you need to understand that this course is demanding for undergraduate students. Only highly motivated students should consider taking this course.	

<p>予備学習の指示</p> <p>Students need to install some (free) computational packages such as Octave, dynare, RStudio (or R), Python, and Maxima in your computer. Windows computers are preferred, but not necessary. In any case, installation of these packages may take time and effort. Each lecture is based on a particular article, and students need to read each paper in advance of each class.</p>
<p>教科書・参考書</p> <p>教科書：指定なし。学習に必要な論文等を NUCT で配布します (All mandatory reading material (professional articles in leading journals) will be distributed at NUCT)。</p> <p>参考書：Christopher A. Pissarides, <i>Equilibrium Unemployment Theory</i>, 2nd edition, MIT press, 2000.</p>
<p>履修条件・注意事項</p> <p>「労働経済」の履修が望ましいが、未履修でも受講可能。</p> <p>講義は英語で行います (All lectures will be given in English)。</p> <p>学習内容は大学院 2 年生向けに設計されており、皆さんにとっては「かなりやりがいのある」内容となりますので、十分な熱意と学習時間の確保が求められます。他方、評価は大学院生とは別の基準で行いますので過度な不安は不要です。課題の大半がコンピューターを用いた統計解析やシミュレーションになります。</p>

<p>授業科目名</p> <p>産業組織特論 (2 単位) Advanced Course of Industrial Organization</p>	<p>開講時限</p> <p>秋学期 金曜日 5 時限</p>
<p>科目区分</p> <p>専門系科目 経済学科専門科目</p>	<p>配当年次</p> <p>3・4 年</p>
<p>担当教員名</p> <p>花菌 誠 (大学院経済学研究科) Makoto HANAZONO</p>	<p>office hour</p> <p>アポイントまたはメール</p>
<p>授業の目的</p> <p>産業組織論で近年重要度の高まっている調達の研究を概観し、このトピックに関連するテーマで論文を執筆するために必要な知識を習得することを目的とする。</p> <p>The purpose is to overview the economics of procurement, which has been important in Industrial Organization, and to acquire knowledge for doing research on the related theme.</p>	
<p>到達目標</p> <p>調達の経済学における様々な論点を深く理解し、わかりやすく説明することができる。比較的最近の研究論文を読みこなし、新しい論点を見出すことができる。</p>	

授業の構成

1	What is procurement?
2	Preliminary Analysis I: Moral Hazard
3	Preliminary Analysis II: Adverse Selection
4	Preliminary Analysis III: Auctions
5	Preliminary Analysis IV: Incomplete Contracts
6	Design of Procurement Contracts
7	Awarding Procedure
8	Limited Liability and Abnormally Low Bids
9	Scoring Auctions
10	Auctions versus Negotiations
11	Student Paper Presentation
12	Student Paper Presentation
13	Student Paper Presentation
14	Student Paper Presentation
15	Student Paper Presentation
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>演習 (50%)、レポート (50%)。演習はグループによる論文報告による。レポートは研究プロポーザル (A4 で 3-5 ページ)。評価基準：論文報告で、基本的な概念や用語を理解し議論、運用できること、また研究プロポーザルで、背景・問い・研究の位置づけがきちんと述べられていること。</p>	
<p>授業時間外学習の指示</p> <p>各講義の題材となっている論文や書籍を初回に指定し、それを予習、復習時に読むこと。</p>	
<p>教科書・参考書</p> <p>教科書は使用しない。初回に文献リストを配布する。参考書：Dimitri, et al ed., Handbook of Procurement, Cambridge</p>	
<p>履修条件・関連する科目・注意事項</p> <p>ミクロ経済学 II, 産業組織の履修が望ましいが、同等の知識があれば受講可。講義は英語で行う。This course is offered in English.</p>	

授業科目名	国際経済特論 (2単位) Advanced Course of International Economics	開講時限	秋学期 月曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	柳瀬 明彦 (大学院経済学研究科) Akihiko YANASE	office hour	By appointment
授業の目的 This course offers materials in international trade theory under perfect competition. The goal is to enhance students' research ability by complete understanding of basic models of international trade and their applications.			
到達目標 Students will be able to understand the basic models of international trade under perfect competition; they can understand the basic structure of each model and mechanism at work. Students will also be able to read research articles that are applications of the basic models, and to construct and analyze models on their own.			

授業の構成

1	Introduction and preliminaries
2	Ricardian model of international trade 1: Basic two-sector model
3	Ricardian model of international trade 2: Multi-sector model
4	Applications of Ricardian trade model 1: Natural resources and trade
5	Applications of Ricardian trade model 2: Trade policy
6	Heckscher-Ohlin model 1: Preliminary analysis
7	Heckscher-Ohlin model 2: Equilibrium
8	Heckscher-Ohlin model 3: Basic theorems
9	Applications of Heckscher-Ohlin model 1: Trade policy
10	Applications of Heckscher-Ohlin model 2: Economic growth
11	Duality analysis in trade models 1: Preliminary analysis
12	Duality analysis in trade models 2: Equilibrium and comparative statics
13	Duality analysis in trade models 3: Gains from trade
14	Summary
15	Summary and evaluation
成績評価の方法と基準 Participation in class, submission of homework assignments (30%), and final exam (70%). Evaluation is based on total score, and students are required to get 60% or higher to pass. Both for homework and exam, students should correctly prove propositions or derive equations in the model by using knowledge and tools discussed in the class. The course withdrawal system is applied; students who do not take the final exam will receive an F grade.	
授業時間外学習の指示 Students should spend their time on review after the class (going through the material and references, doing computation of models on your own, etc.).	
教科書・参考書 This course does not use a textbook, but course materials are available on the NUCT. References will be provided in the class.	
履修条件・関連する科目・注意事項 There are no prerequisites, but students are recommended to be familiar with basics in undergraduate-level microeconomics.	

授業科目名	財政特論 (2単位) Advanced Course of Public Finance	開講時限	春学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	齋川 浩司 (国際経済政策研究センター) Koji SAIKAWA	office hour	講義終了後又は随時予約
講義の目的 この講義では、税を通して、社会経済の各種課題について考察する。日本が直面する政策テーマについて議論することを通じて、自主的探究力を育成することを目的とする。This course provides students with some materials of some economic issues concerning tax. The purpose of this course is to enhance voluntary exploration ability through discussing the policy themes Japanese society confronting.			
到達目標 各種課題について多面的に検討することを通じ、政策の分析及び立案能力を涵養する。			

授業の構成

1	(租税概論) 租税原則と租税体系
2	(租税概論) 所得税・法人税の基本的枠組み
3	(所得課税) 所得とは～包括的所得概念
4	(所得課税) 新たな分野の経済活動と税～暗号資産など
5	(法人課税) 企業の M&A と税 (1) ～M&A の各種手法 (合併、TOB、持株会社など)
6	(法人課税) 企業の M&A と税 (2) ～組織再編税制
7	(法人課税) 企業の M&A と税 (3) ～グループ通算制度 (旧連結納税制度)
8	(法人課税) 企業の倒産・再生と税
9	(資産課税) 資産課税の現状と課題～相続税の論点
10	(資産課税) 中小企業の事業承継と税
11	(資産課税) 固定資産税制度の現状と課題
12	(社会保障論) 消費税の使い道(1) ～公的医療保険・介護保険制度を中心に
13	(社会保障論) 消費税の使い道(2) (同上)
14	(納税環境) マイナンバー制度
15	予備・まとめ
成績評価の方法と基準 講義内で2回課スレポートをもとに、評価する。授業で得た知識をもとに、論述できることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 講義では、各種制度や政策の論点を指摘するので、各自、授業後に私見をまとめること。	
教科書・参考書 教科書は使用しない。毎回の授業で講義資料を配付する。参考書については講義の中で紹介する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。This course will be taught in Japanese.	

授業科目名	金融特論 (2単位) Advanced Course of Money and Finance	開講時限	春学期 火曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	齊藤 誠 (大学院経済学研究科) Makoto SAITO	office hour	火曜日 4時限
講義の目的 本講義では、古今東西の通貨と信用の歴史を振り返る作業を踏まえて、現代の金融の諸課題(たとえば、非常に攻撃的な量的金融緩和、暗号通貨の普及、金融危機の予防と対応など)を解明する視座を得ることを目的とする。 This lecture devotes its two thirds to a history of credits and currencies in both western and eastern countries including Japan, and the remaining one third to discussions of current policy issues, including cryptocurrencies, quantitative easing, and financial crises, in the historical contexts.			
到達目標 受講生が、金融史、経済史にかかわる理論的、実証的な研究を深いレベルで理解するとともに、そこから得た知見を現在の金融制度や金融行政、あるいは、金融政策へ応用できる能力を養う。			

授業科目名	公共経済特論 (2単位) Advanced Course of Public Economics	開講時限	秋学期 水曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	玉井 寿樹 (大学院経済学研究科) Toshiki TAMAI	office hour	By Appointment (質問方法: E-mail, NUCT)
授業の目的 本講義では、公共経済学の発展的な内容を学修し、現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦・解決する能力を養うことを目的とする。 This course deals with the advanced level topics of Public Economics including public goods, externalities, imperfect competition, asymmetric information, etc. It also enhances the development of students' skill in advanced method of economic analysis in the field of Public Economics.			
到達目標 公共経済学の主要課題について理解した上で、公共経済学分野の課題に関して高度な分析・議論を展開することができる。 At the end of the course, participants are able to explain the research trend and understand advanced issues of Public Economics.			

授業の構成

1	人間関係のなかにある金融：約束と信用、貨幣の聖俗、信用の膨張と抑制
2	共同体における交換と信用：信用なき物々交換と略奪、信用と貨幣の螺旋階段、記憶としての貨幣
3	銀行の誕生：譲渡可能な預金、預託から預金へ、口頭の約束から文書の契約へ
4	信用創造：信用を超越する信用、株式会社の誕生、中央銀行の誕生、バブル狂騒曲、国家の金融から産業の金融へ
5	越境する通貨と信用：外国為替手形、金本位制の栄光と挫折、基軸通貨、非常時の外国為替
6	銀の世界、金の世界：新大陸の銀と価格革命、金本位制度とゴールドラッシュ、19世紀米国の通貨論争、貨幣数量説の起源
7	中央銀行の形：決済のプラットフォーム、最後の貸し手、物価の安定と経済の安定、セニョリッジ
8	貨幣と信用の日本史：古代の貨幣と信用、中世の信用と徳政、戦国時代の国際金融、江戸時代金融の爛熟、戦争と金融、沖縄返還と通貨
9	利子をめぐる攻防：近代のための神学に向けて
10	破約に対する過酷と寛容：返済をめぐるモラルとペナルティ
11	証券取引の風景：店頭取引、取引所の取引
12	デリバティブの世界：「信用を超越した信用」を超越する信用
13	金融史から見た暗号通貨の世界：暗号通貨は信用貨幣なのか、通貨なのか
14	金融史から見た金融危機への対応：危機における人間たち
15	金融史から見た攻撃的な量的緩和と政策：量的緩和による信用創造の限界、負の金利政策の帰結
成績評価の方法と基準 毎回、講義に即した小テストを宿題に課すとともに、学期の最後に提出期限1週間を目途とした持ち帰りの試験を課す。評価については、講義ごとに提出してもらう小テスト(40%)、期末レポート(60%)で評価する。全体として、C-評点以上を合格要件とする。成績評価の基準は、毎回の講義の内容について、予習をし、講義を受け、宿題を含み復習してきたかどうか、そして、そうした学習行為の成果が期末提出レポートに十分に反映されているかどうかで評価を行う。なお、履修取り下げ制度は採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回の講義において、当該回の講義に関する小テストを宿題に課すとともに、次回の講義内容に関する予習文献を指定する。学期の最後には、期限を1週間と設けた期末レポートを課す。	
教科書・参考書 最初の講義で関連論文のリーディングズを配布する。参考書としては、デヴィッド・グレーバー『負債論：貨幣と暴力の5000年』(以文社、2016年)を批判的に用いていく。	
履修条件・関連する科目・注意事項 受講者が毎週、論文や参考書を精読しておくことを前提とする講義である。	

授業の構成

1	Introduction
2	Equilibrium and Efficiency
3	Government
4	Public Goods (1)
5	Public Goods (2)
6	Imperfect Competition
7	Externalities
8	Asymmetric Information
9	Voting
10	Rent-Seeking
11	Equity and Distribution
12	Taxation (1): Commodity Taxation
13	Taxation (2): Income Taxation
14	Local Public Finance (1): Fiscal Federalism
15	Local Public Finance (2): Fiscal Competition
成績評価の方法と基準 ・成績評価方法：演習(50%)及び期末レポート(50%)で評価する。 ・成績評価基準：公共経済学の発展的な概念を用いて主要課題についてわかりやすく説明できることを合格の基準とする。 ・履修取り下げ制度：採用しない。 ・Your final grade will be calculated according to the following process: assignment 50% and term paper 50%. ・To obtain the pass grade, the students must be able to explain the research trend and knowledge of public economics appropriately with understanding of the advanced research methods the research field. ・The course withdrawal system is not adopted.	

授業時間外学習の指示 毎回の授業前に指定された論文を読んでおくこと。 Students are expected to read the assigned reading papers before every class starts.
教科書・参考書 教科書：Hindriks, J. and G.D. Myles, <i>Intermediate Public Economics</i> (2nd ed.), 2013, MIT Press. (ISBN: 9780262018692) 参考書：Atkinson, A.B. and J.E. Stiglitz, <i>Lectures on Public Economics</i> (Updated ed.), 2015, Princeton University Press. (ISBN: 9780691166414)
履修条件・関連する科目・注意事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学 I・II を履修済みであることが望ましい（未履修でも受講可能）。 ・大学教養レベルの数学の知識（線形代数・解析学）を必要とする。 ・Basic knowledge of Mathematics (Linear Algebra and Mathematical Analysis) and Microeconomics for undergraduates are required. ・This course will be taught in Japanese.

授業科目名 現代資本主義特論（2単位） Advanced Course of Contemporary Capitalism	開講時限 秋学期 木曜日 5時限
科目区分 専門系科目 経済学科専門科目	配当年次 3・4年
担当教員名 鍋島 直樹（大学院経済学研究所） Naoki NABESHIMA	office hour 月曜日 16：30～17：30
授業の目的 ポスト・ケインズ派経済学の基本的枠組みについて学ぶ。これを通じて、現代資本主義の構造と動態を分析するための応用能力を養う。 This course aims to enhance the applicable ability required to analyze the structure and dynamics of contemporary capitalism by learning the basic framework of Post Keynesian economics.	
到達目標 ポスト・ケインズ派の理論・方法・政策に関する理解を深めることを通じて、現代資本主義の構造と動態を分析するための応用能力を習得する。	

授業の構成

1	序論
2	ポスト・ケインズ派経済学の核心（1）
3	ポスト・ケインズ派経済学の核心（2）
4	ポスト・ケインズ派マクロ経済学とは何でないのか（1）
5	ポスト・ケインズ派マクロ経済学とは何でないのか（2）
6	方法論的な問題
7	ポスト・ケインズ派のミクロ経済学
8	経済成長・発展・世界経済
9	経済政策（1）
10	経済政策（2）
11	グローバル金融危機（1）
12	グローバル金融危機（2）
13	ポスト・ケインズ派と他の諸学派（1）
14	ポスト・ケインズ派と他の諸学派（2）
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 報告（50%）、および試験（50%）により評価する。ポスト・ケインズ派の理論・方法・政策について正確に理解したうえで、それを適切に説明できることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 輪読形式で授業を進めるので、報告者は担当箇所のレジュメを作成する。また、毎回の授業後に教科書やその他の参考文献を読み、知識や理解をさらに深めるよう努めること。	
教科書・参考書 King, J. E., <i>Advanced Introduction to Post Keynesian Economics</i> , Edward Elgar, 2015.（開講時までに各自で入手しておくこと）	
履修条件・関連する科目・注意事項 経済理論について、学部レベルの知識を習得していることを前提とする。	

授業科目名	経済学史特論（2単位） Advanced Course of History of Economic Theories	開講時限	春学期 火曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	鍋島 直樹（大学院経済学研究科） Naoki NABESHIMA	office hour	月曜日 16:30~17:30
授業の目的 20世紀を代表する経済学者の一人であるミハウ・カレツキの生涯と業績について総体的に考察する。これを通じて、経済学史の応用能力を養うことを目的とする。 This course aims to enhance the applicable ability in the history of economic theories by learning the life and works of Michal Kalecki.			
到達目標 カレツキの経済学の全体像を理解することを通じて、経済学史の応用能力を習得する。			

授業科目名	社会思想史特論（2単位） Advanced Course of History of Social Thoughts	開講時限	春学期 金曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	隠岐 さや香（大学院経済学研究科） Sayaka OKI	office hour	木曜4限
授業の目的 この講義の目的は、近代社会の形成に大きな役割を果たした18世紀ヨーロッパ思想の理性と寛容にまつわる思想言説を再検討することです。This seminar revisits the discourses related to reason and tolerance in the 18th century European thoughts, which have played essential roles for the formation of our modern society. Students are invited to read some of the texts in <i>Tolerance: The Beacon of the Enlightenment</i> (2015), anthology originally edited in French.			
到達目標 思想史一般の理解を深めることと、この分野における探求能力の獲得を目指します。 Through this seminar, you will deepen your understanding on the history of thought and acquire voluntary exploration ability in this field.			

授業の構成

1	序論
2	ミハウ・カレツキの生涯と業績（1）
3	ミハウ・カレツキの生涯と業績（2）
4	利潤と生産量についてのカレツキの理論
5	カレツキの理論の起源と独自性（1）
6	カレツキの理論の起源と独自性（2）
7	価格と所得分配の理論
8	有効需要についてのカレツキの長期理論——趨勢と景気循環（1）
9	有効需要についてのカレツキの長期理論——趨勢と景気循環（2）
10	財政と金融政策についてのカレツキのマクロ経済学
11	カレツキの開放経済マクロ経済学
12	ミハウ・カレツキ——開発経済学の開拓者
13	カレツキ——社会主義経済学者
14	ミハウ・カレツキの知的遺産
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 報告（50%）、および試験（50%）により評価する。カレツキの経済学の全体像について正確に理解したうえで、それを適切に説明できることを合格の基準とする。なお、履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 輪読形式で授業を進めるので、報告者は担当箇所のレジュメを作成する。また、毎回の授業後に教科書やその他の参考文献を読み、知識や理解をさらに深めるよう努めること。	
教科書・参考書 Lopez, G. J. and Assous, M., <i>Michal Kalecki</i> , Palgrave Macmillan, 2010.（開講時までに各自で入手しておくこと）	
履修条件・関連する科目・注意事項 経済理論および経済学史について、学部レベルの知識を習得していることを前提とする。	

授業の構成

1	社会思想史とは何か What is “the history of social thought”?
2	カントからみた啓蒙 Enlightenment according to Kant
3	人権 Human rights
4	フェミニズムとフランス革命 Feminism and French Revolution
5	寛容—バール、ロック、ヴォルテール Tolerance: Bayle, Locke and Voltaire
6	宗教の多様性 Multiplicity of religions
7	無知と迷信に抗して Opposition to ignorance and superstition
8	道徳的進歩? Moral progress?
9	文明と野蛮 Civilization and savage
10	奴隷制と啓蒙の時代 Slavery at the age of Enlightenment
11	植民地主義の政治経済学 Political economy of colonialism
12	思想の自由 Liberty of thought
13	18世紀における性的少数者の困難 Difficulty of queer life in the 18 th century
14	自由とセクシュアリティ Liberty and sexuality
15	文明批判と反啓蒙 Critic against civilization and anti-Enlightenment
成績評価の方法と基準 講義における発表もしくはレポートに基づいて評価する。 The evaluation will be made according to the quality of the presentations or the reports of the students at the class.	
授業時間外学習の指示 授業の前に教科書の指定の箇所を読むことが推奨されます。 Students will be recommended to read the specified section of the textbook before attending class.	
教科書・参考書 Caroline Warman, et al. (eds.), <i>Tolerance: The Beacon of the Enlightenment</i> . Cambridge, UK: Open Book Publishers, 2016, https://doi.org/10.11647/OBP.0088	
履修条件・関連する科目・注意事項 This course will be taught in English. 英語のみで授業します。	

授業科目名	日本経済史特論（2単位） Advanced Course of Japanese Economic History	開講時期	春学期 火曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	木越 義則（大学院経済学研究所） Yoshinori KIGOSHI	office hour	随時（予約）。質問はメールもしくは講義後にも受け付けます。
授業の目的 この講義では、日本を中心とする東アジア地域の経済発展の歴史を学ぶことによって、現代の東アジア諸国が直面する諸課題を、学術的に分析できる能力を培います。 This lecture enhances Basic Ability to analyze the problems of modern East Asian economies theoretically by studying the history of economic development in East Asia, especially Japan and China.			
到達目標 ・東アジア地域における農業と工業の発展について、近世から現代に至る概観を理解する。 ・中国における経済発展の特質を、日本、欧米諸国との共通点、相違点を比較しつつ、説明できる知識を獲得する。 ・日本経済史、アジア経済史を巡る論争、学説を理解し、それに対して自分なりの見解、評価を述べることで得られる知識を獲得する。			

授業の構成

1	東アジアの近世：銀、人口、農業（教科書、第1章第1節～第2節）
2	東アジアの近世：貿易、貨幣、市場経済（教科書、第1章第3節～第4節）
3	東アジアの開国と開港：（教科書、第2章第1節～第2節）
4	中国の伝統経済（教科書、第3章第1節）
5	中国の伝統経済の変容（教科書、第3章第2節）
6	清朝の国家的対応（教科書、第3章第3節）
7	中国の近代部門の黎明（教科書、第4章第1節）
8	中国工業の黄金時期（教科書、第4章第2節）
9	南京国民政府の国家的対応（教科書、第4章第3節）
10	満洲経済（教科書、第8章第1節）
11	華北経済（教科書、第8章第2節）
12	日中戦争下の経済変容（教科書、第8章第3節）
13	戦時経済から人民中国へ（教科書、第10章第1節）
14	毛沢東時代の経済発展（教科書、第10章第2節）
15	世界経済の中の中国经济（教科書、第10章第3節）

成績評価の方法と基準

- ・毎回1200字のレポート課題を課す。得点が高い10回分のレポートの平均点で評価する。
- ・東アジア経済の発展について説明できること、経済史学の問題に関する基本的な概念や用語を正しく理解していることを合格の基準とする。
- ・履修取り下げ制度を採用しない。レポートの提出が3分の2（10回）に満たない場合、「欠席」とする。

授業時間外学習の指示

- 予習：教科書の該当章を通読しておくこと。
- 復習：授業時に提示するレポート課題に取り組むこと。

教科書

堀和生・木越義則『東アジア経済史』（日本評論社、2020年）

履修条件・関連する科目・注意事項

高等学校の世界史・日本史、特に近世・近代・現代の基礎知識があること。
一般経済史I、一般経済史IIを履修済みであることが望ましい。

授業科目名	西洋経済史特論（2単位） Advanced Course of European Economic History	開講時期	秋学期 木曜日3時限
科目区分	専門系科目 経済学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	福澤 直樹（大学院経済学研究所） Naoki FUKUZAWA	office hour	木曜日 14:45～15:45 この時間以外にも質問を受け付ける。メール等で申し込むこと。
授業の目的 現代経済は、概してヨーロッパや北米で典型的に展開されてきたタイプの市場指向の経済秩序によって強く規定されています。しかし人間の経済社会の本来のあり方としての長きにわたり定着していたのは共同体社会です。このコースで学生は、そうした共同体社会のあり方についての理解を深め、とりわけ西洋においてそうした社会のあり方が崩れ近代的な市場志向の経済社会が生成した歴史的な基盤、背景、および論理を、自身の動機と関心に基づき学習し、現代の経済社会の位相についての理解を深め、自主的に探究する能力を育成します。 The modern economy is determined by the market-oriented economic order which has been typically established in Europe and North America. However, it was the premodern community that has long been entrenched as the original form of human economic society. In this course, students deepen understanding of such premodern community and learn the historical foundations, background, and logic (especially in the West) of the collapse of such societies and of the creation of modern market-oriented economy on their own motive and interest, whereby the voluntary exploration ability will be fostered.			
到達目標 西洋経済史の主要研究（とりわけ近代以前を対象とした研究および「前近代と近現代」をテーマとした研究）の知見を習得している。 経済社会の前近代性および近現代性を、その根本において理解している。 近現代社会の生成の論理についての洞察を深めている。			

授業の構成

1	Introduction --- Significance of learning Western (Occidental) Economic History in Japan
2	Historical Phases of Various Economic Societies --- Fundamental Framework
3	Economic Relations in Medieval Europe (corresponds to the first half of Ch. 3)
4	Erosion of the Economic Relations of Medieval Europe (second half of Ch. 3)
5	Expansion of the Economic Activities of the European (Ch. 5)
6	Economic Nationalism (Mercantilism / Imperialism: Spain, Portugal and France) (1/2 of Ch. 6)
7	Economic Nationalism (Mercantilism / Imperialism: Netherland and Britain) (2/2 of Ch. 6)
8	Daybreak for the Industrialization (Ch. 7)
9	Aftermath of the Feudalism --- Revolutions and Reforms
10	Emergence of new economic society (Industrial Revolution and Institutional Framework) (Ch.8)
11	Patterns of Industrialization (Great Britain, the United States and Belgium) (1/2 of Ch. 9)
12	Patterns of Industrialization (France and Germany) (2/2 of Ch. 9)
13	Influence of Western Industrialization to the rest of the world
14	Perspective for modern economic society in the Aftermath
15	Summary of the course

<p>成績評価の方法と基準</p> <p>Criterion for evaluation is students' capability to develop the arguments in the class and to apply them to their own thinking. It will be determined from:</p> <p>Final Examination: 50% Active Participation to the discussion: 20% Essay: 30%.</p> <p>The course withdrawal system does not apply. If the student does not take the final exam or submit the essay, his / her grade will be "absent".</p>
<p>授業時間外学習の指示</p> <p>Students are required to read the relevant part of the text before class. NUCT is also used.</p>
<p>教科書・参考書</p> <p>Cameron, Rondo / Neal, Larry, A Concise Economic History of the World --- From Paleolithic Times to the Present, 4th ed., Oxford Univ. Press, 2003. (Handouts will be distributed.)</p> <p>[日本人の学生は、邦訳書: ロンド・キャメロン/ラリー・ニール著 (速水 融 [監訳]) 『概説 世界経済史 I・II』 東洋経済新報社、2013 年を活用することもできます。]</p>
<p>履修条件・関連する科目・注意事項</p> <p>It is desirable to have some background knowledge at the level of high school "world history."</p> <p>日本人学生はさらに、「一般経済史 I・II」「西洋経済史」を履修済み (ないし履修中) であることが望ましい。</p> <p>Students who have already completed G30's Introduction Economic History II are also welcomed.</p> <p>本講義は英語開講です。 Although this lecture will be held in English, Japanese will also be used in order to enhance the understanding for Japanese students who take part in this course together.</p> <p>3rd to 14th lessons above will be based on the graduate student's presentation on the relevant part and the discussion about it. The part without a presenter will be replaced by a full lecture.</p>

<p>授業科目名</p> <p>経営労務特論 (2単位) Advanced Course of Personnel Management</p>	<p>開講時限</p> <p>春学期 金曜日 2時限</p>
<p>科目区分</p> <p>専門系科目 経営学科専門科目</p>	<p>配当年次</p> <p>3・4年</p>
<p>担当教員名</p> <p>鈴木 智之 Tomoyuki SUZUKI</p>	<p>office hour</p> <p>質問は講義終了後、適宜受け付ける。</p>
<p>授業の目的</p> <p>人的資源管理論に関する諸問題を検討する上での応用能力を高めること、その基盤となる研究能力を高めることを目的とする。</p> <p>This course aims to enhance applicable ability and research ability in the field of human resource management.</p>	
<p>到達目標</p> <p>人的資源管理の発展的な概念をわかりやすく論述できるようになる。</p> <p>人的資源管理に関する主要な学術論文を理解し、その内容を説明できるようになる。</p>	

授業の構成

1	ガイダンス
2	輪読1
3	輪読2
4	輪読3
5	輪読4
6	輪読5
7	輪読6
8	輪読7
9	輪読8
10	輪読9
11	輪読10
12	輪読11
13	輪読12
14	予備日
15	予備日
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>課題に対する討議への貢献度 (30%)、期末レポート (70%) を総合して算出される評点をもとに評価する。人的資源管理研究に属する発展レベルの概念や問題について、論理的に考察した結果を述べられることを合格の基準とする。成績評価の方法と基準は大学院講義と同様であり、学部生のみへの課題提示は行わない。</p> <p>履修取り下げ制度を採用しない。そのため、期末レポートを提出しなければ「欠席」とする。</p>	
<p>授業時間外学習の指示</p> <p>自分自身が輪読を担当する課題文献について、事前に精読し、資料を作成した上でプレゼンテーションを行うことが求められる。また、自分自身が輪読を担当しない場合においても、討議に参加するため、事前の精読が求められる。</p>	
<p>教科書・参考書</p> <p>複数の学術論文を用いる。学術論文については初回講義で指示・説明する。また、必要に応じて第二回講義以降においても指示・説明する。</p>	

履修条件・関連する科目・注意事項

- 学部において「経営労務」を履修していることが望ましいが、未履修でも受講可能である。ただし、人的資源管理論の基礎知識は必要であり、各自で不足があれば補うことが求められる。
- 本講義は大学院講義を学部生にも開放したものであり、大学院生と同時に受講する。そのため、学術論文（英語論文を含む）を読み、要約し、プレゼンテーションを行う能力と意欲がある、またはそれらを今後身につけることを目指す学部生のみが受講することを推奨する。
- 初回講義において報告形式を含めた講義の説明を行う為、初回講義への参加が履修には必須となる。初回講義に参加できない者の履修は認めない。
- 講義及び討議は日本語で行われる。ただし、使用する文献の読解には英語と日本語の両方が必要となる。

授業科目名	ファイナンス特論（2単位） Advanced Course of Finance	開講時期	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中島 英喜（大学院経済学研究科） Hideki NAKASHIMA	office hour	開講後アナウンスします
授業の目的 本講義では、学部レベルの金融経済学（フィナンシャル・エコノミクス）の知識を既に習得している学生を対象として、証券投資論と資産価格論における専門知識を基に、文献・資料から必要なデータやエビデンスを収集し、それに基づいた分析的なレポートを作成・プレゼンテーションする能力の育成を目指す。 This course enhances Research Ability in portfolio theory and asset pricing.			
到達目標 (1) 現代投資理論（MPT）に基づくポートフォリオ選択をPC上で実行できる、(2) 資産価格の標準的な評価式（CAPM）を導出できる、(3) CAPMを用いた株価評価を実行できる。 Three goals are set; (1)Selecting optimal portfolio on MPT, (2)Deriving standard CAPM, and (3)Estimating a stock price on CAPM. Exercises with PC will be arranged as needed.			

授業の構成

1	イントロダクション、基本的な用語の定義
2	キャッシュフローの4分類、資産市場の分類
3	金利と債券価格（裁定取引と無裁定条件）
4	株式投資と効率的市場仮説
5	確率と統計（演習課題）
6	不確実性下の意思決定と期待効用仮説
7	稲作モデル（1）
8	稲作モデル（2）
9	期待効用最大化原理とポートフォリオ選択
10	MPTと分離定理
11	等質期待仮定と資本市場線
12	CAPMと証券市場線
13	CAPMの実証
14	完全市場における株価の評価
15	総復習

成績評価の方法と基準

出席報告（20%）、レポート（80%）で評価する。素点合計の100点満点換算で60点以上を合格要件とする。評価基準は上記の3つの到達目標に関する理解の程度とその説明の適切さによる。レポートの課題は、上記3つの到達目標を広くカバーし、かつ難易の幅を持たせることで左記理解の程度と説明の適切さを測る。なお、履修取り下げ制度は採用しない。出席6割未満、もしくは本人からの連絡があれば「欠席」と判断する。

授業時間外学習の指示

講義に用いる教材は下記サイトで予め公開する。受講生は授業前に一通り目を通しておくのが望ましい。
(<http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~nakashima/FEM/index.htm>)

教科書・参考書

テキストは指定しない。適宜教材を提供する。参考図書：(1) 小林孝雄，他「新・証券投資論（理論編）」（日本経済新聞社）、(2) リチャード・ブリーリー，他「コーポレートファイナンス」（日経BP社）。

履修条件・関連する科目・注意事項

教養レベルの微分・積分、および線形代数の基礎的な知識（簡単な逆行列の演算ができる）、さらに学部レベルの確率・統計の知識（共分散や回帰分析の定義や内容を説明できる程度の知識）が必須。受講対象は卒業論文等でCAPMを使う必要がある者を想定。

授業科目名	生産管理特論（2単位） Advanced Course of Production Management	開講時限	秋学期 金曜日5時限
科目区分	専門科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	浅井 紀子 Noriko ASAI	office hour	開講後、授業にてアナウンスします
授業の目的			
<p>・この講義では、製造業の現場管理に関する先端研究の理論を中心に基礎知識を確実に習得し、応用能力を育成する。文献・資料から必要なデータやエビデンスを収集し、経済学・経営学の知見を駆使して、製造業の視点から将来のリーダーとしての素質を養うために、日本の製造業が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる応用能力、研究能力の向上を目的とする。・ This course enhances research ability by learning basic theory and method in operations management.</p>			
到達目標			
<p>・本コース終了時に、製造現場の変革に関する先端研究を理解し、製造業が直面している諸課題を自ら分析・研究し、解決するための対応策を示すことができる。</p>			

授業の構成

1	イントロダクション
2	製品と工程の歴史的分析
3	生産プロセス分析、納期遅延と発生要因の対策－1
4	生産プロセス分析、納期遅延と発生要因の対策－2
5	生産計画と生産統制
6	CPS
7	I o Tにおける知財戦略
8	品質概念
9	検査と品質評価
10	生産システムの進化と設備保全
11	製造業におけるイノベーションの理論と本質－1
12	製造業におけるイノベーションの理論と本質－2
13	製造業におけるイノベーションの理論と本質－3
14	製造業におけるイノベーションの理論と本質－4
15	総括
成績評価の方法と基準	
<p>・履修取り下げ制度を採用しない。成績評価は、毎回課す課題レポート提出と報告（60点）、および討論への参加（40点）において、製造業が直面している諸課題を適切に理解し、説明でき、解決するための対応策を、毎回のレポートにて明確に論述したうえで授業中の討論時間にて発言できることを合格の基準とします。従って、毎回課すレポートの未提出（欠席や遅刻も未提出扱いとなります）、および私語は不合格となります。</p>	
授業時間外学習の指示	
<p>授業後に毎回宿題を課すので、次回時にレポートとして提出すること。毎回の授業冒頭で行うレポート提出及び報告・討論で確認します。</p>	

教科書・参考書
<p>毎日、日本経済新聞を熟読し、世界経済の動向や製造現場の現状を把握して授業に臨むことは、大学院授業に臨む前提条件、必須事項です。授業中の討論にて確認いたします。教科書・参考書は必要に応じて、授業中に指示します。</p>
履修条件・関連する科目・注意事項
<p>学部授業の生産管理の単位を修得済みの者。学部での生産管理の勉強の基礎が盤石であること前提に、発展的な内容をハードスケジュールで進めていきます。大学院は勉強するところです。「名古屋大学大学院経済学研究科の授業に臨む」という自覚、勇気ある知識人として、世界のリーダーになる気概を持ち、ハイレベルな授業で勉強する緊張感と覚悟のある方にのみに履修をお奨めします。</p> <p>毎回レポート課題を提示いたしますので、レポート作成したうえで授業に臨み、冒頭で全員にレポートの内容を報告、議論していただきます。従って、レポート未作成や報告なし（欠席、遅刻）、私語は、0点となり、単位は取得できません。外部講師招聘の都合上、授業の構成が変更になることがあります。The course will be taught in Japanese.</p>

授業科目名	マーケティング特論（2単位） Advanced Course of Marketing	開講時限	春学期 火曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	山口 景子（大学院経済学研究科） Keiko YAMAGUCHI	office hour	By appointment
授業の目的 この講義では、マーケティング分野の実証研究を計画・実施するために必要な調査計画と統計分析の知識を学ぶことを通して、学生のみなさんの分析的なレポートを作成・プレゼンテーションする能力を強化し、ご自身の研究の遂行をサポートすることを目的としています。 この講義は、大学院との合同開講科目です。大学院生への学びの提供を主眼におき、マーケティング・サイエンス分野での学術論文執筆を考えている学生向けにデザインされています。			
This course aims to introduce advanced knowledge about experimental/research designs and statistical methods and enhance their research abilities, such as writing analytical reports and having presentations for their graduate school studies. This course is designed for students who seek to conduct original research in the field of marketing science.			
到達目標 The goals of this course are the following: <ul style="list-style-type: none"> • Students become able to choose/read appropriate academic papers/books about marketing science on their own. • Students will be ready to plan their original research in the social science field based on the knowledge they earn in the class. 			

授業の構成

1	Introduction & Chapter assignment
2	Chapter 1
3	Chapter 2
4	Chapter 3
5	Cases for Part 1
6	Chapter 4
7	Chapter 5
8	Chapter 6
9	Cases for Part 2
10	Chapter 7
11	Chapter 8
12	Chapter 9
13	Chapter 10
14	Cases for Part 3
15	Summary
成績評価の方法と基準 Your final grade will be calculated according to the following process:	

<ul style="list-style-type: none"> • Class attendance and contribution to the in-class discussion (20%) • Presentation (20%) • Weekly take-home assignments (40%) • Final report (20%) <p>The requirements for passing the course are as follows:</p> <ul style="list-style-type: none"> • You can join in-class discussions with your original ideas. • You can summarize the contents in the textbook precisely and illustrate them to the audience clearly. • You can propose constructive ideas to develop their understanding of the experimental/research designs and analytical methods and make their research plans. <p>※ If you are absent from this class more than four times, you will get an "F" automatically. ※ 本講義では、履修取り下げ制度を採用します。</p>
授業時間外学習の指示 All participants are expected to spend enough time on the required readings, presentation preparations, take-home assignments, and other learning activities.
教科書・参考書 <u>Textbook</u> Iacobucci, D., and Churchill, G. A. (2018). <i>Marketing Research: Methodological Foundations, 12th ed.</i> Earlie Lite Books, Inc. <u>Additional reference for undergraduate students</u> 星野崇宏・上田雅夫. (2018). 『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣.
履修条件・関連する科目・注意事項 This course will be taught mainly <u>in English</u> . There is no prerequisite for enrolling in this class. However, basic knowledge about marketing, mathematics, econometrics, and statistics is required to understand the contents provided in this class. Hence, students are expected to have credits of courses dealing with these topics. Students who skip the 1 st class without prior approval by the instructor are NOT accepted.

授業科目名	経営組織特論 (2単位) Advanced Course of Organization and Management	開講時限	秋学期 金曜日3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	犬塚 篤 (大学院経済学研究科) Atsushi INUZUKA	office hour	質問は講義中にすること (毎回, 質問のタイミングを用意する)
授業の目的 ・本講義では, 組織論の基礎をレビューした後に, 組織現象としてのリーダーシップ論について, 批判的に検討を重ねていく. Empirical Study では, これらの各論に関する原著論文に触れながら, 社会科学系の研究論文の読み方と書き方に関するアカデミック・トレーニングを行い, それに基づいた分析的なレポートを作成・プレゼンテーションする能力を育成する. <u>The course will provide topics related to "leadership" with up-to-date empirical studies. The course has six lessons named "Empirical Study" in which the lecturer and students discuss adequacy or techniques used in reading assignments (empirical papers). Through the discussion, the course expects students to obtain academic mind and/or skill (research ability) which are required to write/present their own study.</u>			
到達目標 ・原著論文の統計数字の意味や, 分析の技法, 読解の要点を掴むコツを習得する. ・原著論文の問題点を発見し, それを反面教師とすることで, 優れた論文を書くスキルを身につける			

<ul style="list-style-type: none"> 議論に非積極的な学生に対しては, その回の Empirical Study のレポート評定を減ずることがある.
授業時間外学習の指示 <ul style="list-style-type: none"> Empirical Study では, 指定される原著論文 (英文) を読解しレポートを準備の上, 講義に臨むこと. Empirical Study で使用する文献の書誌情報は, 初回の講義で指示する.
教科書・参考書 <ul style="list-style-type: none"> 教科書: なし. 履修登録後, 講義ノート, NuCT (https://ct.nagoya-u.ac.jp/portal) より配布する. Chemers, M. M.(1997), An Integrative Theory of Leadership, Lawrence Erlbaum Associates. (白樫三四郎訳(1999)『リーダーシップの統合理論』北大路書房).
履修条件・関連する科目・注意事項 <ul style="list-style-type: none"> 統計学の基礎知識, 中級以上の英文読解力および日本語の理解力を必要とする. 大学院生向け授業のため, 講義内容は高度であることを覚悟されたい. 講義は日本語で行うが, 議論は英語で参加して構わない (The lectures will be given in Japanese, though, you can participate discussions in English).

授業の構成

1	Introduction to empirical study in social sciences
2	A toolbox of social sciences
3	Organization design and incentive system 1
4	Organization design and incentive system 2
5	Empirical Study 1
6	Empirical Study 2
7	Basic leadership theory 1
8	Basic leadership theory 2
9	Empirical Study 3
10	Empirical Study 4
11	New leadership theory 1
12	New leadership theory 2
13	Empirical Study 5
14	Empirical Study 6
15	Summary: How to write good papers?
成績評価の方法と基準 ・Empirical Study レポート (10点×6回) + 期末レポート (40点) で, 60点 (論文内容に関する最低限の理解ができたこと) 以上をもって合格とする. ・履修取り下げ制度を適用しない. Empirical Study に二回以上欠席をした者, および期末レポート未提出の者は, 理由に関わらず「欠席」扱いとする.	

授業科目名	経営戦略特論 (2単位) Advanced Course of Management Strategy	開講時限	春学期 月曜日4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	宮崎 正也 (大学院経済学研究科) Masaya MIYAZAKI	office hour	月曜日2時限 (事前予約による対応)
授業の目的 ・実務家による経営の実践事例を取り上げて検討することで、現実の企業の諸課題を分析し、解決するための応用能力を育むことが、本講義の目的である。The purpose of this lecture is to foster the applicable ability to analyze and solve various issues in real companies by taking up and examining practical cases of management by practitioners.			
到達目標 ・「経営戦略の論理と分析手法を現実に応用できる」 ・「戦略的思考を日常生活で実践できる」			

授業の構成

1	講義の進め方と、事例として取り上げる企業の紹介 (企業名は開講日に公表)
2	企業事例①に対する事前学習
3	経営実践の企業事例①: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
4	企業事例②に対する事前学習
5	経営実践の企業事例②: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
6	企業事例③に対する事前学習
7	経営実践の企業事例③: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
8	企業事例④に対する事前学習
9	経営実践の企業事例④: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
10	企業事例⑤に対する事前学習
11	経営実践の企業事例⑤: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
12	企業事例⑥に対する事前学習
13	経営実践の企業事例⑥: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
14	企業事例⑦に対する事前学習
15	経営実践の企業事例⑦: 実務家からの報告(講演)、事前学習へのフィードバックと質疑応答
成績評価の方法と基準 ・質疑応答への参加度 (50%)、そして事前学習レポート (50%) を総合して算出される評点をもとに評価する。 ・企業経営に関する理論的な知識や概念を用いて、経営現象を議論できることを合格の基準とする。 ・履修取り下げ制度を採用しない (課題未提出は「欠席」扱いとする)。	
授業時間外学習の指示 ・実務家から企業事例の報告を聞く前に、事前学習 (その企業や業界に関する情報収集) を行うこと。 ・実務家から企業事例の報告を聞く回に、質疑で使用する「質問項目リスト」を作成し、提出すること。	
教科書・参考書 教科書: とくに指定しない 参考書: 『デマンド・サイド経営学』 中央経済社, 宮崎正也 著	
履修条件・関連する科目・注意事項 ・経済学部の基礎科目レベルの知識が求められるが、それらに關係する科目の授業を履修していなくても受講可能。 ・企業への就職を意識している3年次学生の積極的な参加を期待する。	

授業科目名	財務会計特論 (2単位) Advanced Course of Financial Accounting	開講時限	春学期 木曜日4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘 (大学院経済学研究科) NOGUCHI Akihiro	office hour	月曜日(Monday) 12:00-13:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
Course Aims This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand intermediate financial accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
Course Objectives The goals of this course are to ・ be able to understand and explain accounting treatments based on accounting theory. ・ be able to understand and explain some advance contents of bookkeeping.			

授業の構成

1	Introduction
2	Equity in Japan (1) J-GAAP
3	Equity in Japan (2) Japanese Corporation Law
4	Equity in Japan (3)
5	Equity (1)
6	Equity (2)
7	Dilutive Securities (1)
8	Dilutive Securities (2)
9	Investments (1)
10	Investments (2)
11	Revenue (1)
12	Revenue (2)
13	Revenue (3)
14	Essay presentation
15	Summary
成績評価の方法と基準 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assignments in NUCT (40%), Presentation (40%), Essay (20%). The procedure for "withdrawing the course" will not be applied. Not submitting essay will be graded as 'Absent'. Passing criteria is 60% of the overall grade. Understanding the contents of the intermediate accounting course will be required. The course withdrawal system is not adopted, but not submitting the final essay will be marked as "Absent".	
授業時間外学習の指示 You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues.	
教科書・参考書 Textbook: Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, <i>Intermediate Accounting</i> , IFRS Edition Third edition, Wiley, 2018.	

Other reference will be announced during the class if necessary.
履修条件・関連する科目・注意事項 Ability to speak and discuss accounting and bookkeeping in English will be required to attend this course. This course is recommended (but not required) for students who have finished studying Introductory Accounting. You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor.

授業科目名	管理会計特論（2単位） Advanced Course of Management Accounting	開講時限	春学期 木曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	坂口 順也（大学院経済学研究所） Junya SAKAGUCHI	office hour	要予約（各質問に対応） By appointment
授業の目的 管理会計の代表的な著作であるキャブランとノートンの『戦略マップ』を輪読して、管理会計についての知識の獲得と応用能力の養成を目的とする。 This course aims to enhance the understanding of research topics and to acquire applicable abilities of management accounting, by using <i>Strategy Maps: Converting Intangible Assets into Tangible Outcomes</i> (by Kaplan and Norton, 2004) which is a famous management accounting book.			
到達目標 近年の管理会計における業績測定システムの研究動向に関する知識を身につけることを目的とする。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	第1章 序章
3	第2章 戦略マップ
4	第3章 業績管理のプロセス
5	第4章 顧客管理のプロセス
6	第5章 イノベーションのプロセス
7	第6章 規制と社会のプロセス
8	第7章 インタングIBLEZを企業の戦略に方向づける
9	第8章 人的資本レディネス
10	第9章 情報資本レディネス
11	第10章 組織資本レディネス
12	第11章 戦略マップのカスタマイズ
13	第12章 戦略実行キャンペーンの計画
14	ケースファイル（1）
15	ケースファイル（2）
成績評価の方法と基準 事前レポート（50%）、授業への出席と発表(30%)、議論への参加態度(20%)で評価する。内容の要約、疑問点の提示、自身の感想が記載されていることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。30%以上出席がない場合は「欠席」とする。	
授業時間外学習の指示 授業で取り扱う箇所について、必ず予習をして、事前にレポートを提出すること。事前レポートの提出がない場合、授業への出席を認めない。	
教科書・参考書 教科書 ロバート・キャブラン/デビッド・ノートン著『戦略マップ [復刻版]』東洋経済新報社、2014年。 参考書 必要に応じて、授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 「管理会計」「経営分析」の単位を修得済みであることが望ましいが、未履修でも受講可能。履修する場合は、必ず、初回の授業に出席すること。	

授業科目名	監査特論 (2単位) Advanced Course of Auditing	開講時限	秋学期 火曜日3時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹 (大学院経済学研究科) SEMBA, Hu Dan	office hour	講義後 (予めメールでの質問を推奨)
授業の目的 本講義では、「監査」研究・実務において重要な概念である「監査の質」に焦点を合わせ、その概念や統計学的アプローチを用いた場合の日本市場の実態などの研究成果を受講者と一緒に確認する。「監査」領域や「会計学」領域における統計的研究手法に馴染んでもらい、経済学・経営学の一角を占める監査の領域の知識やリーダーとしての資質を身につけ、現代の経済社会が直面する諸監査領域の課題に挑戦し、解決できる力を育むことを目的としている。加えて、本講義では、グループごとの発表や議論などを予定していることから、プレゼンテーション能力、リーダーシップ能力、協調性を育むことも期待できる。なお、学期中2回にわたり、「監査」実務に携わる外部講師（日本公認会計士協会東海会より派遣を受ける予定）による実務の現場視点からの報告も予定している。This lecture is designed as to let participants understand/think deeply the important concept: audit quality, and is expected to help participants have solutions/ the ways to find solutions for the future challenges in practical modern economic social.			
到達目標 (授業終了時に学生は、) 監査の意義や「監査の質」に関わる論点について、知識が備えられ、パブリックに、それをプレゼンテーションできる。			

授業の構成

1	イントロ
2	「監査の質」の概念
3	英国 FRC による監査の質
4	IAASB による監査の質
5	米国 PCAOB による監査の質
6	監査の質の評価フレームワークと監査領域における重要概念との関係
7	監査の質のアカデミック実践的測定
8	ビッグデータと会計監査（仮題）（外部講師による）
9	監査の信頼性回復に向けて（仮題）（外部講師による）
10	監査の質の提供側のインセンティブ・能力と監査の質
11	監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査法人の規模と監査の質
12	監査の質の提供側の能力である業種特化と監査の質
13	監査の質の提供側のインセンティブと市場の反応：オリンパス事件からの証拠
14	監査の質の提供側のインセンティブ・能力である監査報酬と監査の質
15	総括
成績評価の方法と基準 議論に関わる度合いなど講義への貢献度（30%）、プレゼンテーションや発表（45%）、レポート（25%ぐらい）で評価する。講義中の内容についての適切にプレゼンテーション・解説できること、講義中の内容あるいは講義中指定の内容に関するコンテンツを適切に説明でき・考察できることを合格の基準とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書等の指定箇所を読んでおくこと。	

教科書・参考書 教科書：『グローバル時代における監査の質の探究』仙場胡丹著，千倉書房，2016年。 参考書は必要に応じて、授業中に指示する。
履修条件・関連する科目・注意事項 1. 教科書が必要 であるので、原則購入のこと。2. 履修したい場合、 初回は必ず出席 すること。3. 本講義を受講するにあたり、会計学に関する基礎知識が必要である。4. 講義を進めるため、 http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/ を利用することがある。5. 事前に担当教員の承諾を得た者も受講可能。

授業科目名	経営分析特論 (2単位) Advanced Course of Business Analysis	開講時限	秋学期 木曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	仙場 胡丹 (大学院経済学研究科) SEMBA, Hu Dan	office hour	講義後 (予めメールでの質問を推奨)
授業の目的 本講義では、経営分析の一部分として考えられる企業による「会計操作」に焦点を合わせ、統計学的アプローチを用いた場合の日本企業の実態などの研究成果を受講者と一緒を確認する。「会計学」領域における統計的研究手法に馴染んでもらい、企業の「会計操作」に関わる知識を身につけ、また、グループ発表を通じて、リーダーとしての資質を身につけ、現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し、解決できる力を育むことを目的としている。 The purpose of this course is to enhance Research and Applicable Ability in implementing business analysis methods, like earning's management. This lecture is designed as to let participants understand/think deeply of companies' earnings management in the real world and is expected to help participants have solutions/ the ways to find solutions for the future challenges in practical business analysis.			
到達目標 (授業終了時に学生は、) 経営分析の一部分として考えられる企業による「会計操作」に関わる論点について、知識が備えられ、パブリックに、それをプレゼンテーションでき、さらに、実行できる手段について理解できていること。			

教科書・参考書 教科書：『会計操作—その実態と識別法、株価への影響』須田一幸・山本達司・乙政正太編著、ダイヤモンド社、2007年。 参考書は必要に応じて、授業中に指示する。
履修条件・関連する科目・注意事項 1. 教科書が必要 であるので、原則購入のこと (アマゾンでは Kindle 版がある)。2. 履修したい場合、 初回は必ず出席 すること。3. 本講義を受講するにあたり、会計学に関する基礎知識が必要である。4. 講義を進めるため、 http://www.soec.nagoya-u.ac.jp/~kotan/ を利用することがある。5. 事前に担当教員の承諾を得た者も受講可能。

授業の構成

1	イントロ
2	会計操作と粉飾決算の実態 (1)
3	会計操作と粉飾決算の実態 (2)
4	会計操作と監査
5	会計操作の検出方法 (1)
6	会計操作の検出方法 (2)
7	企業の資金調達と会計操作 (1)
8	企業の資金調達と会計操作 (2)
9	<経営分析の実務コーナー> ゲストスピーカー「インパクト投資の手法と事例紹介」(仮題)
10	経営者の業績予想と会計操作 (1)
11	経営者の業績予想と会計操作 (2)
12	会計操作に対する株価反応 (1)
13	会計操作に対する株価反応 (2)
14	会計操作とビッド・アスク・スプレッド (1)
15	会計操作とビッド・アスク・スプレッド (2)
成績評価の方法と基準 議論に関わる度合いなど講義への貢献度 (30%)、プレゼンテーションや発表 (45%)、レポート (25%ぐらい) で評価する。講義中の内容についての適切にプレゼンテーション・解説できること、講義中の内容あるいは講義中指定の内容に関するコンテンツを適切に説明でき・考察できることを合格の基準とする。	
授業時間外学習の指示 毎回の授業前に教科書等の指定箇所を読んでおくこと。	

授業科目名	国際会計特論（2単位） Advanced Course of International Accounting	開講時限	秋学期 金曜日1時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	野口 晃弘（大学院経済学研究科） NOGUCHI Akihiro	office hour	月曜日(Monday) 12:00-13:00 メールによる要予約 Appointment by e mail
Course Aims This course is intended to provide an opportunity for students to learn and understand international aspects of accounting, which will enhance ability to do research and look for solutions for the accounting policy making.			
Course Objectives The goals of this course are to <ul style="list-style-type: none"> ・ be able to understand and explain the country uniqueness (including legal aspects) of accounting policy using Japan as an example. ・ be able to understand and explain some advanced contents of financial accounting such as consolidated financial statements. 			

授業の構成

1	Introduction
2	History of Japanese Accounting (1)
3	History of Japanese Accounting (2)
4	Causes and examples of international differences
5	International classification of financial reporting
6	Introduction to international harmonisation
7	The background to financial reporting by listed groups
8	IFRS in context: concepts, presentation and revenue
9	IFRS in context: assets and liabilities
10	IFRS in context: group accounting
11	Different versions of IFRS practice
12	Financial reporting in the United States
13	Essay Presentation (1)
14	Essay Presentation (2)
15	Summary
成績評価の方法と基準 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assignments in NUCT (40%), Presentation (40%), Essay (20%). Passing criteria is 60% of the overall grade. Understanding the contents of the intermediate international accounting course will be required. The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not submitting essay will be graded as ‘Absent’.	
授業時間外学習の指示 You will be required to read all of the assigned readings and prepare presentation for the assigned accounting issues.	
教科書・参考書 Textbook: Christopher Nobes & Robert B. Parker, Comparative International Accounting, Pearson	

Education Limited: 14th edition Other reference will be announced during the class if necessary.
履修条件・関連する科目・注意事項 Ability to speak and discuss accounting and bookkeeping in English will be required to attend this course. This course is recommended (but not required) for students who have finished studying Introductory Accounting and Financial Accounting (or Intermediate Accounting). You are responsible for knowing about any changes in the syllabus, or any other information announced in class. You are responsible to attend every class. No make-ups will be allowed without prior approval by the instructor.

授業科目名	経営情報特論 (2単位) Advanced Course of Management Information	開講時限	春学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経営学科専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科) Rei HINO	office hour	随時
授業の目的 合理的で実践的な意思決定を主体に行うため、サービスに対する理論的な理解を深めることを目的とする。本授業では、待ち行列理論に基づいたサービスと待ちの事象を対象に、ビジネス活動を行う上での諸課題に取り組み、解決できる能力の育成を行う。 This course will introduce the basic topics and techniques to manage the service activities appropriately. The purpose of this lecture is to learn queue theory.			
到達目標 ・身の周りの事象の確率的な振る舞いについてわかりやすく説明できる。 ・サービスに対して待ちが何故生じるのかを理解し、待ちの状態を減らすための方策を立案できる。			

授業の構成

1	イントロダクション
2	自然対数の底 (連続複利と対数関数の微分)
3	統計の基礎 (確率密度関数、期待値、分散)
4	ベルヌーイ試行と二項分布
5	ポアソン分布
6	指数分布
7	待ち行列の基礎 (表記方法、リトルの公式)
8	窓口が一つの待ち行列モデル (ポアソン到着、指数サービス、単一窓口: M/M/1)
9	” (例題)
10	窓口が複数の待ち行列モデル (ポアソン到着、指数サービス、複数窓口、M/M/s)
11	” (例題)
12	その他の待ち行列モデル 1 (ポアソン到着、一般のサービス、単一窓口: M/G/1)
13	その他の待ち行列モデル 2 (ポアソン到着、一般のサービス、複数窓口: M/G/s)
14	その他の待ち行列モデル 3 (ポアソン到着、次数のアランサービス、複数窓口: M/E _k /s)
15	まとめ
成績評価の方法と基準 授業中に出す課題に対するレポート (100%) により評価を行う。課題の再提出は認めるが、正答が得られたレポートを評価対象とする。課した課題数に対する正答が得られたレポート数が 60%以上のときに C 評定以上の評価を与える。単位取り下げ制度を採用しない。提出レポート数が半数に満たないときは「欠席」とする。	
授業時間外学習の指示 授業で説明した例題については自分でも計算を行うこと。	
教科書・参考書 教材用プリントを必要に応じて配布し、授業の進捗に応じて参考書を紹介する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	経済数学 A (2単位) Mathematics for Economics A	開講時限	春学期 金曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	立石 寛 (大学院経済学研究科) Hiroshi TATEISHI	office hour	随時受付・要予約
授業の目的 この講義では経済学の勉強にあたり必要となる基本的な数学事項について習得することにより、経済学の理解に資するとともに、経済学において執り行われている数学的な分析の基本的な作法について学ぶことを目的とする。 The aim of this lecture is to study the basic mathematics which is used in economics.			
到達目標 授業終了時に学生は、基本的な経済学文献に現れる数学を読み解くことができると共に、簡単な数学を用いた経済分析ができる。			

授業の構成

1	はじめに
2	数とは
3	関数
4	連続関数
5	1変数関数の微分
6	テイラー展開
7	多変数関数
8	点列とノルム
9	多変数関数の微分
10	高階の微分
11	極値問題
12	最適のための一階の必要条件
13	制約付きの最適化問題
14	Lagrange の未定乗数法
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末試験 (60%) 及びレポート (40%) で評価する。それぞれについて C-評定以上 (2019 年以前の入学者については C 評定以上) を合格要件とする。数学についての適切な理解及び経済学に現れる数学事項を適切に読み解くことができることを合格の基準とする。	
履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 毎回授業前に教科書の指定箇所を読んでおくこと。	
教科書・参考書 教科書は指定しないが、NUCT を通じて講義資料を配布する。参考書は必要に応じて指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は課さない。	

授業科目名	経済数学 B (2単位) Mathematics for Economics B	開講時限	春学期 水曜日 2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	花崗 誠 (大学院経済学研究科) Makoto HANAZONO	office hour	講義後の時間、またはアポイントメント
授業の目的 本講義の目的は、経済・経営分析に欠かせない基礎的な線形代数学の知識を習得させ、基礎的な分析力を培うことにある。 The purpose of this lecture is to learn introductory linear algebra, which is indispensable for the analysis of economics and business management, and to foster students' basic analytical ability.			
到達目標 ・行列やベクトルに関する演算を習得し、使いこなせるようになること。 ・一般的な連立一次方程式を解けるようになること。 ・行列式の定義や意義を習得すること。			

授業の構成

1	経済学と線形代数
2	行列の定義とその計算 1：行列とは。および和とスカラー倍
3	行列の定義とその計算 2：行列の積
4	行列の標準形と連立一次方程式 1：rref と基本変形
5	行列の標準形と連立一次方程式 2：連立方程式の解法
6	逆行列：定義と性質
7	逆行列：掃き出し法による計算
8	ベクトルの一次独立性、空間の次元
9	空間のベクトル
10	行列式 1：アイデアと定義
11	行列式 2：2次、3次正方行列の行列式
12	一般の行列式の導出、行列式の性質
13	一般の行列式の余因子展開、クラームルの公式
14	予備日
15	まとめ
成績評価の方法と基準 小テスト (3回、30%)、期末試験 (70%)。基本的な計算課題、概念把握やその運用、簡単な証明からなり、全体で概ね 50%の正答が合格の基準である。履修取り下げ制度を採用しない。	
授業時間外学習の指示 講義ノートを用いた予習・復習、およびノートにある練習問題を解くこと。	
教科書・参考書 教科書は指定しない。講義ノートを配布する。参考書は必要に応じて授業中に指示する。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。	

授業科目名	統計解析 (2単位) Statistical Methods and Applications	開講時限	春学期 水曜日 1時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	1年
担当教員名	根本 二郎 (大学院経済学研究科) Jiro NEMOTO	office hour	質問はメールまたはメールで面会を予約すること
授業の目的 この講義は統計学の初等的技法の基礎とその応用能力を身につけることを目的とする。確率変数の考え方に基づいて母集団と標本の関係を理解し、1変量の場合の統計的推測の方法を修得する。 This course is aimed at learning elementary statistical skills with their theoretical formulation. We learn methods of the univariate statistical inference.			
到達目標 ・標本と母集団の関係と社会統計における標本抽出の問題点を理解する。 ・平均、分散など標本の代表値の見方・使い方と計算方法を修得する。 ・確率変数の考え方を理解し、初等的な確率分布について期待値と分散が計算でき、期待値と分散の公式を正しく使うことができる。 ・点推定量の満たすべき性質を理解し、点推定量の優劣を議論できる。 ・区間推定の理論を理解し、実際のデータから母平均の信頼区間を求めることができる。 ・仮説検定の理論を理解し、実際のデータを使って母平均に関する仮説検定を行うことができる。 ・正規分布が統計的推測において果たしている役割を理解する。 ・利用可能な情報量と統計的推測のパワーの関係について、初等的な理解を得る。			

授業の構成

1	統計的推測の考え方
2	標本と母集団
3	標本分布 (1)：度数分布
4	標本分布 (2)：代表値 (標本平均、標本分散)
5	標本分布 (3)：チェビシェフの不等式
6	母集団：無限母集団と母集団の代表値 (母平均、母分散)
7	標本と確率
8	確率変数と確率分布 (1)：連続型と離散型
9	確率変数と確率分布 (2)：期待値と分散に関する公式
10	点推定：不偏性、有効性、一致性 (大数法則)
11	正規分布と中心極限定理
12	区間推定：母平均の区間推定
13	検定 (1)：母平均の検定
14	検定 (2)：仮説の設定、両側検定と片側検定
15	検定 (3)：有意水準と検定力 (第1種のエラーと第2種のエラー)
成績評価の方法と基準 成績評価は期末試験による。期末試験では、標本に関する基本的理解、確率変数の期待値と分散に関する基本的な計算法の理解、母平均に関する区間推定と仮説検定の公式の使用法の理解が合格の基準となる。履修取り下げ制度は適用せず、期末試験を受験しなかったものを取下げとみなす。	

授業時間外学習の指示 講義の際に復習用の練習問題を配布するので各自取り組むこと。練習問題の解答は原則として問題を配布した次の週の講義で配布する。
教科書 ：木下宗七編「入門統計学」（新版）有斐閣 参考書 ：宮川公男「基本統計学」有斐閣、森棟公夫「統計学入門」新世社 倉田博史・星野崇宏「入門統計解析」東洋経済新報社 久保川達也・国友直人「統計学」東京大学出版会
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は課さない。高等学校数学ⅡB程度の数学の知識を前提にする。この講義の内容の多くは数学B「確率分布と統計的推測」の内容と重なる。数学Bの教科書を手に置いて適宜参照することを推奨する。

授業科目名	経済発展（2単位） Economic Development	開講時限	春学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中田 実(大学院環境学研究科) Minoru NAKADA	office hour	Tuesday 12:00-12:50 with appointment
授業の目的 This course is intended to provide an opportunity for students to apply basic micro and macro theoretical models to issues particularly important for economic growth and development.（本コースは、基礎のミクロ・マクロ経済学で履修した理論モデルを、経済発展の重要課題に応用し、学生の応用能力の向上を目標とする。）			
到達目標 Students are expected to understand how to apply micro and macro theories into issues related to economic growth and development.（本コース終了時に学生は、経済発展にとって重要な課題を理解することができる。）			

授業の構成

1	Introduction（イントロダクション）
2	Introductory dynamics 1（動学1）
3	Introductory dynamics 2（動学2）
4	Stylized facts of economic growth（経済成長に関する定型化された事実）
5	Economic growth 1（経済成長1）
6	Economic growth 2（経済成長2）
7	Economic growth 3（経済成長3）
8	Issues in economic development 1（経済発展の課題1）
9	Issues in economic development 2（経済発展の課題2）
10	Economy and the externalities 1（経済と外部性1）
11	Economy and the externalities 2（経済と外部性2）
12	Economic development and the environment 1（経済発展と環境1）
13	Economic development and the environment 2（経済発展と環境2）
14	Sustainable development（持続可能な発展）
15	Wrapping up and evaluation
成績評価の方法と基準 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assignments (40%), Final exam (60%). Each assignment is graded. Your grade is determined as the summation of these grades. To pass the course, you must earn C (that is about 60 out of 100) or above. The procedure for “withdrawing the course” will not be applied. Not taking the final exam will be graded as ‘Absent’.（課題は履修評価の対象となり、課題と期末試験の合計で評価される。課題40%、期末試験60%で評価を行う。合格にはC(100点中60点)以上の評価が必要。履修取り下げ制度を採用しない。期末試験を未受験の場合、「欠席」として扱う。）	
授業時間外学習の指示 Students are expected to complete all the assignments. (履修者はすべての課題を提出すること。)	
教科書・参考書 No textbook: course materials to be distributed via NUCT. Reference book, Charles Jones, Introduction to Economic Growth, W.W.Norton.	

<p>履修条件・関連する科目・注意事項</p> <p>Prerequisites: This course has no prerequisites. However, the course is recommended for students who have taken Introductory Microeconomics and/or Introductory Macroeconomics. Ability to speak and discuss in English will be required to attend this course. Checking any changes in the syllabus, or any other information announced in class is your responsibility. (履修条件は特に示さないが、初級のミクロ経済学又は(及び)初級のマクロ経済学を履修済みであることが望ましい。本講義は英語で行われる。シラバスの変更やその他必要な情報は講義内で連絡されるが、それらを随時チェックしておくこと。)</p>
--

授業科目名	情報処理 (2単位) Information Processing	開講時限	秋学期 火曜日 4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	中野 牧子 (大学院環境学研究所) Makiko NAKANO	office hour	講義終了後 またはメール等で別途日程調整
<p>授業の目的</p> <p>この講義では、Excel 及び R を用いて統計学・計量経済学の基本的な推定方法を学ぶことを通して、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むための入門的な知識の一部を身に付けることを目的とします。授業前半は Excel、後半は R を使用する予定です。</p> <p>The aim of this course is to help students acquire the ability of conducting basic data analysis using Excel and R. This course is related to basic statistics and econometrics that are the parts of the introductory knowledge needed to analyze the issues in our society.</p> <p>到達目標</p> <p>授業終了時には学生は、Excel と R を用いた基本的な分析が行えるようになることを目指します。授業では以下の内容を扱いますが順番は前後することがあります。</p>			

授業の構成

1	イントロダクション
2	統計学の復習
3	記述統計 (1)
4	記述統計 (2)
5	R の使い方の基本
6	最小2乗法 (1)
7	最小2乗法 (2)
8	最小2乗法 (3)
9	不均一分散 (1)
10	不均一分散 (2)
11	系列相関 (1)
12	系列相関 (2)
13	操作変数法 (1)
14	操作変数法 (2)
15	まとめ
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>成績は中間レポート (10%) と期末レポート (90%) で評価します。授業で学習した内容を正しく理解していることを合格の基準とします。</p> <p>履修取り下げ制度は採用しません。期末レポートを提出しない場合は「欠席」として扱います。</p>	
<p>授業時間外学習の指示</p> <p>この授業はソフトの使い方の説明に時間を割くため、統計学・計量経済学に関する理論的な説明には多くの時間を割きません。統計学・計量経済学に関する予備知識があると、授業がより理解しやすいです。予備知識が不足する場合には、適宜紹介する参考書等で復習をしてください。</p>	
<p>教科書・参考書</p> <p>教科書は使用せず、資料を配布します。参考書は適宜紹介します。</p>	
<p>履修条件・関連する科目・注意事項</p> <p>受講者数の上限は 65 人です。受講希望者が 65 人を超える場合、抽選を実施します。</p>	

授業科目名	日本経済論 (2単位) Japanese Economy	開講時限	秋学期 火曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	水谷 研治 (客員教授) MIZUTANI Kenji	office hour	講義後
授業の目的 自主的探求力を育成する。具体的には身近なニュースや経済の仕組みに焦点を当て、それらが理解できるように、必要とされる経済の基礎知識を体系的に提供する。			
Course Aim and Objectives This course enhances Research Ability in investigate short term and long term movements of the Japanese Economy.			
到達目標 現実の世界や日本の経済の動きを見る力を身につけていただく。そのうえで将来の経済情勢を予想し、対応が考えられるようにする。			

授業の構成

1	講義の概要	目的	生きた経済	経済の常識	ドル円相場	経歴の紹介	計画と要望
2	経済の見方	経済の捕まえ方	需要と供給	個と全体	4大部門	国内総生産	
3	人と家計	働くことの意味	収入と支出	貯蓄と借金	借金地獄		
4	企業と経営	仕入、製造、販売	人、物、金	企業の目的と利益			
5	国の財政	歳入と歳出	赤字と借金	夕張市より悪い国家財政	財政改革の影響		
6	国際収支	輸出と輸入	為替相場	貿易収支と経常収支			
7	海外の経済	アメリカの貿易赤字	ヨーロッパの行方	中国経済の行方	資源国		
8	金融と資金需給	経済と金融	景気と資金需要	資金の供給	収益性と危険性	借金の限界	
9	デフレとインフレ	需要と供給と価格	物価指数	名目と実質	生産の条件		
10	経済政策の効果	金融政策の前提	財政政策の効果	赤字財政の罨			
11	経済の構造変化	規制と自由化	1次、2次、3次産業	もの作りの重要性			
12	健康経済学	健康の維持増進	少子高齢化	医療と介護	費用と公共支援	保険と予防	
13	日本経済の問題点	供給過剰	産業の空洞化	少子高齢化	財政破綻		
14	日本経済の見通し	インフレへの転換	永遠の衰退へ	大改革による落ち込み			
15	試験						
成績評価の方法と基準 期末試験。日常点を加味することがある。履修取り下げ制度を採用しない。							
授業時間外学習の指示 大きな経済の動きに注目し、将来どのような影響を及ぼすかを考える習慣をつけること。							
教科書・参考書 「財政改革の衝撃---待つも地獄、進むも地獄の日本経済」水谷研治著 東洋経済新報社							
履修条件・関連する科目・注意事項 自分の人生へどのように影響するかという観点から社会の大きな動きを見る習慣をつけて欲しい。							

授業科目名	大学生のための職業論 (2単位) Job Training for University Students	開講時限	春学期 水曜日 3時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	3・4年
担当教員名	根本 二郎 (大学院経済学研究科) Jiro NEMOTO	office hour	質問は毎回の講義終了時に受ける他、メールで予約すること
授業の目的 本講義はキタン会 (経済学部同窓会) の協力により、大学、企業、本学 OB から招聘した講師による連続講義で構成される。受講者は、講義やワークを通じて自主的探求力を培うとともに、専門教育を学ぶ意味と就職して働く意義を問い直し社会での「働き方、生き方」について理解を深めることにより、社会が直面する諸課題を解決する人材となることが期待される。 This course introduces participants to recognition of work and occupation to support career development. The course is composed of a series of lectures provided by leading professionals of various fields. It is expected that this course helps participants become a person performing as a leader to solve difficulties of society.			
到達目標 ・各自自身の将来のキャリアを考える契機とする。 ・各自の勤労観ないし職業観を彫琢する。 ・各自のロールモデルまたはロールモデル候補を見出す。 ・働くために必要なスキルとして、コミュニケーション力とメンタルヘルスマネジメントを向上させるための知識を身につける。 ・就職活動で活用できる経済・経営の知識を身につける。			

授業の構成

1	講義全体のガイダンス
2	日本経済から見る職業論
3	人的資源管理から見る職業論
4	企業から見た人材 1
5	企業から見た人材 2
6	企業で働く 1
7	企業で働く 2
8	職場のメンタルヘルス
9	インターンシップの使い方
10	起業 1
11	起業 2
12	専門職業人として働く
13	“仕事”と“働く”ということ 1
14	“仕事”と“働く”ということ 2
15	“仕事”と“働く”ということ 3
成績評価の方法と基準 レポート 3回 (それぞれウェイト 1/3) によって評価する。レポートは講義のうち一つを選び講義内容の要約と、講義に基づき職業観またはキャリアについて考えたことをまとめる。講義に即して自身で考えたオリジナルの内容を含んでいるかどうかを合格の基準とする。履修取り下げ制度は適用せず、レポートを3回提出しなかったものを取下げとみなす。	

授業時間外学習の指示 毎回、講義内容に即して職業観またはキャリアについて自身で考えたことをまとめておくこと。
教科書・参考書 教科書は指定しないが講義資料は nuct により毎回配布する。参考書は必要に応じて講師が授業中に指示する。
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。講師の都合により講義の順番は変更することがある。

授業科目名 (特殊講義)グローバル・ファイナンス・マネジメント(2単位) Special Studies (Global Finance Management)	開講時限	春学期 木曜日 4 時限 Spring Term Thursday 4 th Period
科目区分 専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2 年
担当教員名 佐野 良雄 (非常勤講師) Yoshio SANO	office hour	火・木午前中 am Tue/Thu e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的: 経済学・経営学の知識やリーダーとしての資質を身に付け、現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し解決できる人材を育成します。本教科では、経済学部教育目標を達成する為に、基礎知識を応用する能力を育成します。 Purpose of Lecture: This lecture aims at grasping fundamentals for economics and business administration, and at nurturing personnel who can challenge for solution of the modern-day economy. This program also aims for application skills for basic knowledge to accomplish education goals of School of Economics.		
到達目標: 講義終了時に、学生は将来社会人・企業人として必要な経済やファイナンスの基礎知識を習得し、自ら将来のリーダーとしてのキャリア形成の土台とすることができる。		

授業内容

1	イントロダクション	大学	4 月 15 日
2	銀行業務 1	三井住友銀行	4 月 22 日
3	銀行業務 2	三井住友銀行	5 月 6 日
4	銀行業務 3	三井住友銀行	5 月 13 日
5	中央銀行業務 1	日本銀行	5 月 20 日
6	中央銀行業務 2	日本銀行	5 月 27 日
7	証券業務 1	野村証券	6 月 3 日
8	証券業務 2	野村証券	6 月 17 日
9	証券業務 3	野村証券	6 月 24 日
10	企業活動と金融	日本政策投資銀行	7 月 1 日
11	地方銀行業務	名古屋銀行	7 月 8 日
12	プロジェクト・ファイナンス入門	三井物産	7 月 15 日
13	信託銀行業務	三井住友信託銀行	7 月 22 日
14	特別講義または課外活動	大学	未定
15	まとめと評価	大学	未定
成績評価の方法と基準: 成績評価は、講義内容に関する複数回のレポート(60%)およびテスト(10%)、英語テキストに基づく期末試験(10%)、講義への積極的な参画(20%)をポイントに換算して成績を付与する。レポートの評価は「講義の内容を理解し課題に対し答えているか、独自の視点で論じているか、適切な表現方法をもちいているか」により判断され、ポイント(100点換算)60点以上の者を合格とする。			
授業時間外学習の指示: 日経新聞購読を推奨する。Webによる小テストを実施する			
教科書・参考書: 講義は原則として配布資料(または NUC よりダウンロード)により行う。英語テキストは『英語で分かるはじめての財務諸表 40 日間トレーニング』 初回講義で英語テキスト割引購入証を配布する(または NUCT による配布)			
履修条件・注意事項: 講義は原則として、ビジネスの第一線でご活躍の方に講師をお願いする 遅刻しないこと 講義中の私語は慎み、講義目的以外の携帯電話使用厳禁 講義開始 5 分前には着席のこと リモート講義の場合には定められた時間に聴取のこと			

授業科目名	(特殊講義) グローバル・マニュファクチャリング・マネジメント (2単位) Special Studies (Global Manufacturing Management)	開講時限	春学期 火曜日4時限 Spring Term Tuesday 4 th Period
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	樋野 励 (大学院経済学研究科) Rei HINO 佐野 良雄 (非常勤講師) Yoshio SANO	office hour	火・木午前中 am Tue/Thu e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的: 経済学・経営学の知識やリーダーとしての資質を身に付け、現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し解決できる人材を育成します。本教科では、経済学部の教育目標を達成する為に、基礎知識を応用する能力を育成します。 Purpose of Lecture: This lecture aims at grasping fundamentals for economics and business administration, and at nurturing personnel who can challenge for solution of the modern-day economy. This program also aims for application skills for basic knowledge to accomplish education goals of School of Economics.			
到達目標: 講義終了時に、学生は日本における製造業の概観を把握し、経営の基礎を習得すると同時に、基礎知識を応用する能力を育成し、自ら将来のリーダーとしてキャリア形成の指針とする基礎とすることができる			

授業科目名	(特殊講義) グローバル・コーポレート・マネジメント (2単位) Special Studies (Global Finance Management)	開講時限	秋学期 月曜日4時限 Autumn Term Monday 4 th Period
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	宮崎 正也 (大学院経済学研究科) Masaya MIYAZAKI 佐野 良雄 (非常勤講師) Yoshio SANO	office hour	月・水午前中 am Mon/Wed e-メールによる事前アポイント Appointment by e-mail
講義の目的: 経済学・経営学の知識やリーダーとしての資質を身に付け、現代の経済社会が直面する諸課題に挑戦し解決できる人材を育成します。本教科では、経済学部の教育目標を達成する為に、基礎知識を応用する能力を育成します。 Purpose of Lecture: This lecture aims at grasping fundamentals for economics and business administration, and at nurturing personnel who can challenge for solution of the modern-day economy. This program also aims for application skills for basic knowledge to accomplish education goals of School of Economics.			
到達目標: 講義終了時に学生は、企業理念や戦略がどのように策定され、企業活動に反映されているのかという基礎知識を習得し、将来リーダーとしてのキャリア形成に資することができる。			

授業内容

1	イントロダクション	大学	4月13日
2	海外工場の経営	デンソー	4月20日
3	グローバル企業におけるキャリア・パス	デンソー	4月27日
4	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会 (1)	トヨタ自動車	5月11日
5	自動車産業の概要と新たなモビリティ社会 (2)	トヨタ自動車	5月18日
6	機械設備生産工場の運営 (1)	新東工業	5月25日
7	機械設備生産工場の運営 (2)	新東工業	6月1日
8	ICT産業の概要	富士通	6月8日
9	ICT産業のグローバル経営と戦略	富士通	6月15日
10	素材産業の概要とグローバル経営 (1)	三井化学	6月22日
11	素材産業の概要とグローバル経営 (2)	大同特殊鋼	6月29日
12	素材産業の概要とグローバル経営 (3)	日本ガイシ	7月6日
13	電機・エレクトロニクス産業の概要とグローバル経営	三菱電機	7月13日
14	特別講義	大学	7月20日
15	特別講義または課外活動	大学	未定
成績評価方法: 成績評価は、講師企業から出題される講義内容に関する複数回のレポート(60%)、ケーススタディの期末レポート(20%)および講義への積極的な参画(20%)をポイントに換算して成績を付与する。レポートの評価は「講義の内容を理解し課題に対し答えているか、独自の視点で論じているか、適切な表現方法をもっているか」により判断され、ポイント (100点換算) 60点以上の者を合格とする			
授業時間外の学習の指示: 事前に開示される講義資料を熟読する 日経新聞購読を推奨する			
教科書・参考書: 講義は原則として配布資料 (または NUCT よりダウンロード) により行う			
履修条件・注意事項: 講義は原則として、ビジネスや行政の第一線でご活躍の方に講師をお願いしている。対面講義の場合、遅刻しないこと 講義中の私語は慎み、講義目的以外の携帯電話使用厳禁。講義開始5分前には着席のこと リモート講義実施の場合には定められた時間に聴取すること			

授業内容

1	イントロダクション	大学	10月4日
2	グローバル企業の経営	総合商社	三井物産 10月11日
3	グローバル企業の戦略	総合商社	三井物産 10月18日
4	グローバル企業の経営 (1)	総合商社	豊田通商 10月25日
5	グローバル企業の経営 (2)	総合商社	豊田通商 11月1日
6	グローバル企業の経営と戦略	テレコム (1)	NTT データ 11月8日
7	グローバル企業の経営と戦略	テレコム (2)	NTT データ 11月15日
8	グローバル物流と企業の役割	電気機器	ブラザー工業 11月22日
9	グローバル企業の経営と戦略	損害保険	損保ジャパン 11月29日
10	グローバル企業の経営と戦略	物流	日本通運 12月6日
11	グローバル物流に関する国の取組		国土交通省 12月13日
12	証券取引所の役割		名古屋証券取引所 12月20日
13	世界遺産とは (世界遺産検定ガイダンス)		世界遺産アカデミー 1月17日
14	特別講義		未定 1月24日
15	まとめ		未定
成績評価方法: 成績評価は、講師企業から出題される講義内容に関する複数回のレポート(80%)、および講義への積極的な参画(20%)をポイントに換算して成績を付与する。レポートの評価は「講義の内容を理解し課題に対し答えているか、独自の視点で論じているか、適切な表現方法をもっているか」により判断され、ポイント (100点換算) 60点以上の者を合格とする			
授業時間外の学習の指示: 事前に開示される講義資料を熟読する 日経新聞購読を推奨する			
教科書・参考書: 講義は原則として配布資料 (または NUCT よりダウンロード) により行う			
履修条件・注意事項: 講義は原則として、ビジネスの第一線でご活躍の方に講師をお願いする。遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用厳禁 講義開始5分前には着席のこと リモート講義実施の場合には定められた時間に聴取すること			

授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ開発入門 (2単位) : Special Studies (Leadership Development Basics)	開講時限	春学期 月曜日5限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年以上
担当教員名	松岡 洋佑 (イノベスト) Yosuke MATSUOKA 志賀 奈月美 (大学院経済学研究科) Natsumi SHIGA	office hour	志賀とメールで事前に日程調整を行うこと
講義の目的			
【日本語】 本授業では毎回の授業内で実施されるコミュニケーションスキル向上のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探求力、より具体的には、リーダーシップ能力の取得が目指される。ここで言うリーダーシップとは、上下関係にない相手を適切な方向に導く力を指す。グループ活動を支援するため、担当講師により、リーダーシップ論についての基礎知識に加え、論理思考・討議・フィードバックのスキルの教授が行われる。本スキルは、近年の企業採用担当者が重視するリーダーシップであると同時に、授業受講中の学生生活から生きるライフスキルである。本授業は、「アビームシステムズ株式会社」と産学連携を行って開講する。授業には、アビームシステムズ株式会社の社員が、グループ活動を進める上で基礎となる知見の解説やチームへのフィードバックやメンタリングを行うなど、サポート社員として複数回参加する。			
【英語】 This course aims to increase your leadership skills by having students engage in activities in groups. The leadership taught in this course is “leadership without authority”, the ability where you will need to influence others without giving orders. This ability is not only being focused during job hunting, but is an ability that can be used in your everyday life. To support your group activity, teachers will provide leadership lectures. Additionally, time will be taken for the following skills such as logical thinking, debate, feedback. This course is provided with cooperation from “Abeam Systems Ltd.”. Employees from the company will provide information to guide you with the course and give feedback to your presentations.			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・最小三要素（目標共有・率先垂範・相互支援）を意識してリーダーシップをとれるようになる ・個々のリーダーシップのあり方を模索し、自分の持ち味を活かしたリーダーシップのあり方を理解し、実践できるようになる ・具体的経験とフィードバックというリーダーシップ開発の手法を理解し、自ら実践できるようになる ・討議の際に、傾聴や率直で建設的な意見表明、基本的なファシリテーションやタイムマネジメントができるようになる 			

9	ミニプロジェクトキックオフ
10	プロジェクトへのフィードバック
11	プロジェクト成果発表
12	リーダーシップ持論の発表
13	リーダーシップ宣言とリーダーシップ開発プロセスの説明
14	(予備日)
15	(予備日)
成績評価の方法と基準 平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では2回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜（後述）に漏れた者についても同様である。	
授業時間外学習の指示 各回の講義（特にディスカッション）のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。	
教科書・参考書 講義の前、あるいは講義に並行して、受講生にぜひ読んでいただきたい文献として、以下を挙げる。伊賀泰代 (2012)『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他 (2017)『リーダーシップの探求』早稲田大学出版部。	
履修条件・関連する科目・注意事項	

授業内容

1	導入：授業のゴール説明とリーダーシップミニ体験
2	リーダーシップ基本概念の理解：世界標準のリーダーシップ
3	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力 (1)
4	リーダーシップ発揮に必要なスキル：質問力 (2)
5	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック (1)
6	リーダーシップ発揮に必要なスキル：フィードバック (2)
7	リーダーシップ発揮に必要なスキル：論理思考
8	リーダーシップ持論の構築

授業科目名	(特殊講義) リーダーシップ開発実践 (2単位) : Special Studies (Leadership Development Advanced)	開講時限	秋学期 月曜日5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年以上
担当教員名	松岡 洋佑 (イノベスト) Yosuke MATSUOKA 志賀 奈月美 (大学院経済学研究科) Natsumi SHIGA	office hour	志賀とメールで事前に日程調整を行うこと
講義の目的 【日本語】 本授業では毎回の授業内で実施されるコミュニケーションスキル向上のためのグループ活動を通じて、受講生一人ひとりの自主的探求力、より具体的には、リーダーシップ能力の取得が目指される。ここで言うリーダーシップとは、上下関係のない相手を適切な方向に導く力を指す。グループ活動を支援するため、担当講師により、リーダーシップ論やビジネス課題についての基礎知識に加え、論理思考・討議・フィードバック・調査分析・文書作成・プレゼンテーションのスキルの教授が行われる。本スキルは、近年の企業採用担当者が重視するリーダーシップであると同時に、授業受講中の学生生活から生きるライフスキルである。本授業は、「アビームシステムズ株式会社」と産学連携を行って開講する。授業には、アビームシステムズ株式会社の社員が、プロジェクトを進める上で基礎となる知見の解説や最先端事例の紹介、プランへのフィードバックやチーム活動へのメンタリングを行うなど、サポート社員として複数回参加する。			
【英語】 This course aims to increase your leadership skills by having students engage in activities in groups. The leadership taught in this course is “leadership without authority”, the ability where you will need to influence others without giving orders. This ability is not only being focused during job hunting, but is an ability that can be used in your everyday life. To support your group activity, teachers will provide leadership lectures, and basic business skills lectures. Additionally, time will be taken for the following skills such as logical thinking, debate, feedback, information gathering, writing, and presentation. This course is provided with cooperation from “Abeam Systems Ltd.”. Employees from the company will provide information to guide you with the course and give feedback to your presentations.			
到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・最小三要素（目標設定と共有・率先垂範・相互支援）を意識して実践的なリーダーシップをとれるようになる ・「(特殊講義) リーダーシップ開発入門」を通じて養った個々のリーダーシップのあり方を外部の異なる環境で活かし、実践できるようになる ・専門性の高い領域で価値観や専門分野の異なるメンバーとチームを組み、相手の立場に立ち問題を捉え、高次の解決策をチームで共有かつ立案できるようになる ・1人の社会人として率先して活動し、実現可能なプランをチームで立案することによって、実社会でも通用するビジネス視点やスキルを身につける 			

7	必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築（2）
8	中間プレゼンテーション
9	中間振り返り：プラン内容と発揮したリーダーシップへのフィードバック
10	プランのシミュレーション：論理・財務シミュレーション
11	最終発表への準備
12	最終プレゼンテーション
13	振り返り：チーム活動と個人活動の振り返り、改善計画の策定・共有
14	振り返り2：リーダーシップ持論の再構築とリーダーシップ宣言
15	(予備日)
成績評価の方法と基準 平常点のみで評価する。平常点は、出席、クラス全体への発言の量と質、グループのプロジェクト成果、提出物(毎週)の提出度と質からなる。特段の事情がない限り、初回講義への参加がない者による履修は認めない。初回講義では2回目以降の継続参加の意思確認を受講生に対して行うが、そこで意向表明しない者による履修取り下げは認める。応募多数の場合の選抜（後述）に漏れた者についても同様である。	
授業時間外学習の指示 各回の講義（特にディスカッション）のための予習を求める。また、最終的にビジネスプランを提案するため、講義内容の復習や、チーム単位での追加的な情報収集が求められる。	
教科書・参考書 講義の前、あるいは講義に並行して、受講生にぜひ読んでいただきたい文献として、以下を挙げる。伊賀泰代（2012）『採用基準』ダイヤモンド社、スーザン・コミベス他（2017）『リーダーシップの探求』早稲田大学出版部。	
履修条件・関連する科目・注意事項 ディスカッション主体のこの講義では、履修者の上限を50名と定める。適宜選抜を行うため、履修を希望する者は、初回講義の際に示すミニ課題に対応すること。	

授業内容

1	導入：クライアントと解決課題の告知・説明・チームビルディング
2	態度スキルのインプット：リーダーシップ
3	必要なスキルの指導：プロジェクトマネジメントにおける時間とタスクの管理
4	必要なスキルの指導：ビジネスプランの提案
5	必要なスキルの指導：仮説の構築・検証
6	必要な知識のインプット：ビジネスモデルの構築（1）

授業科目名	(特殊講義)アセット・マネジメント概論 (2単位) Special Studies (Introduction to Asset Management)	開講時限	秋学期 火曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	木村 彰吾 (大学院経済学研究科) Shogo KIMURA 橋本 理博 (愛知学院大学商学部) Masahiro HASHIMOTO	office hour	授業終了時に対応する Students can ask questions after class.

授業の目的

経済の成熟期を迎えた我が国において、新しい産業や雇用を創出するような成長分野への投資の重要性が増している。そこで鍵となるのが(長期)投資であるが、その資金の出し手としては年金等の機関投資家のみならず、個人も大きな役割を果たすことが期待されている。また、個人の人生設計においても、労働賃金の成長が鈍化するなかで、金融商品を活用した投資による資産形成の重要性が日々増している。

Japan is almost coming into the matured economy, and the investment in the new growth field becomes more important than ever. In this situation, long-term investment is crucial, and many types of founders, such as corporate investors and individual ones, are playing a significant role. Also, for individuals, asset management using financial products is increasingly important due to the stagnate labor income.

本講義は、当該分野での専門家を各回外部講師として招き、アセットマネジメント(資産運用)に関する基本的な知識から実務に関するまで、幅広いテーマで講義を行う。これを通じて、自主的探究力の育成を目指す。なお、本講義は、日本投資顧問業協会および投資信託協会からの支援によって開講される。

This course invites the experts of asset management as guest lecturers every week and discusses a wide range of topics from basic level to professional one. Through these lectures, it enhances the development of students' ability to spontaneously explore.

In addition, this course is supported by the Japan Investment Advisers Association and the Investment Trusts Association, Japan.

到達目標

「(授業終了時に学生は、)アセット・マネジメント(資産運用)業務に関しての最先端の幅広い知識を身につけることができる。」

At the end of this course, participants are expected to gain a wide-range and the leading-edge knowledge about asset management affairs.

10	自主規制とコード Self-Regulation and Code
11	株主によるガバナンスと企業行動・企業価値 Governance by stockholders, and Corporate Activity, Corporate Value
12	金融デリバティブ取引 Financial Derivative Trading
13	エコノミスト・ストラテジストの業務 Affairs of Economist and Strategist
14	アセット・マネジメント・ビジネスの最先端(経営者が語る) Frontier of Asset Management Business (by a business manager)
15	まとめと評価 Brief Summary and Assessment

成績評価の方法と基準

定期試験で評価する。履修取り下げ制度を採用しないため、定期試験を受験しない者は「欠席」とする。
The final grade will be decided in the term-end exam. In the case of not-taking exam, "Absence" will be marked.

なお、リモートで実施する場合には、毎回の講師によって出される課題を合算した点数を定期試験の得点として評価する。

In the case of remote class, the total assignments' points being offered by each lecturer will be used for the exam-mark.

成績評価は、次の方法により行う：期末試験(課題の合計)100%で評価し、合計100点満点で60点以上を合格とする。

Your final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (total assignments) 100%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

授業時間外学習の指示

日頃から、日本経済新聞などの経済新聞を読むこと

We highly recommend reading the economic press, on a regular basis, such as Nihon Keizai Shimbun.

教科書・参考書

必要に応じて紹介する。

Will be introduced in the class, if needed.

履修条件・関連する科目・注意事項

履修条件は要さない。

Condition for the registration is not defined.

私語や携帯電話の使用を慎むこと。また、講義途中での退席は認めない。

Prohibiting chatting and using cell-phone during the class. Also, students are not allowed to leave a classroom during the lecture.

授業の構成

1	アセット・マネジメントとは What is Asset Management?
2	金融商品取引法とアセットマネジメント Financial Instruments and Exchange Act, and Asset Management
3	投資資産(株式・債券)のリスクとリターン Risk and Return of Investment Asset (Stock and Bond)
4	投資信託 Investment Trusts
5	日本の年金制度とアセットアロケーション Pension system in Japan, and Asset Allocation
6	REIT(不動産投資信託) REIT (Real Estate Investment Trust)
7	株式市場の分析 Analysis of the Stock Market
8	アセット・アロケーションと分散投資 Asset Allocation, and Diversified Investment
9	ヘッジファンド Hedge Fund

授業科目名	(特殊講義)スタートアップ経営論(2単位)(IPO基礎講座) Special Studies (Start-up company management)	開講時限	秋学期 木曜日 5時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	木村 彰吾 (大学院経済学研究科) Shogo KIMURA	office hour	アポイントメントによる
授業の目的 GAF A に代表されるように、イノベーションを踏まえた起業が注目されており、スタートアップ企業が経済成長に寄与することも期待されている。この講義では、会社を起業(スタートアップ企業の設立)し、それを成長させるプロセスを通じて、経営学の知識を身につけ、リーダーとしての資質を身につけることを目的とする。より実践的な内容にするため、スタートアップ企業の経営者、スタートアップから株式上場を目指す(あるいは実現した)企業の経営者などを招聘し事例報告を行う。 Entrepreneurship based on innovation is attracting attention, and it is expected that start-up companies will contribute to economic growth. The purpose of this lecture is to acquire knowledge of business administration and acquire qualifications as a leader through the process of starting a company (establishing a start-up company) and growing it. In order to make the content more practical, we will invite the managers of start-up companies and the managers of companies aiming for (or realizing) listing of shares from startups to report case studies.			
到達目標 ・ 起業のビジネスプランを構想できるようになる。 ・ スタートアップ企業のマネジメントを理解できる			

た知識や概念を用いて論述できることを合格の基準とする。 ・ 履修取下げ制度は適用せず、期限までにレポートが提出されない場合、「欠席」とする。
授業時間外学習の指示 事前に指示した企業などの HP を確認しておくこと
教科書・参考書 上坂徹 (2012)『リブセンス(生きる意味)-25歳の最年少上場社長村上太一の人を幸せにする仕事』日経 B P 社 藤野英人 (2013)『「起業」の歩き方-リアルストーリーでわかる創業から上場までの 50 のポイント』実務教育出版 いずれも参考図書
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さない。起業あるいはスタートアップ企業に関心があることが望ましい。 2019年度まで開講していた「IPO基礎講座」の科目名を変更したため、「IPO基礎講座」の単位取得者は履修しないこと。

授業の構成

1	イントロダクション
2	会社を起業するには
3	株式会社の基礎(会社の機関・株主総会)
4	スタートアップの起業(経営体験談1)
5	上場を目指すために(ショートレビュー)
6	スタートアップ企業の成長戦略
7	事業計画の作成
8	IPO サポート機関との関係
9	内部統制・会社の機関設計
10	上場申請書類および上場申請対応
11	上場会社に求められること(投資家との関係)
12	IPOにより変わるスタートアップ企業
13	ベンチャー企業(経営体験談2)
14	企業が求める人材
15	企業訪問
成績評価の方法と基準 ・ 出席 40%、期末レポート 60%で評価する。それぞれについて C 判定以上を合格要件とする。出席については当該授業回で説明された考え方や用語などを正しく理解できていること(毎回アンケートにより確認する)、レポートについてはビジネスプランやスタートアップ企業のマネジメントについて授業中に得	

授業科目名	(特殊講義)財務・金融行政実務(2単位) Special Studies(Finance and Public Administration)	開講時限	秋学期 木曜日4時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2～4年
担当教員名	柳原 光芳 (大学院経済学研究科) Mitsuyoshi YANAGIHARA	office hour	講義終了後又は随時予約
講義の目的	財政金融当局の行政官による所管行政についての講義を通じて、我が国財政・金融が抱える政策課題及び行政課題についての自主的探求力を育成することを目的とします。 The purpose of this course is to develop the ability to voluntarily explore administrative issues Japan confronting, through lecture by officials of MOF.		
到達目標	我が国経済・財政及び金融が抱える諸課題を理解し、課題解決に向けて探求し自己の意見を形成する。		

授業内容

1	講義ガイダンス、財務局の業務について	東海財務局
2	財政1—日本経済・財政の現状と課題	東海財務局
3	財政2—国有財産～国有財産の概要、国有地の売却、身近な国有地	東海財務局
4	財政3—財政各論～日本の財政と私たちの暮らし	東海財務局
5	財政4—税制～税制の現状と課題	財務省
6	財政5—関税政策	財務省
7	東海地域経済—東海地域経済の特徴と今後の課題等	東海財務局
8	国際政策—世界経済と国際協調体制	財務省
9	財政6—国税庁の業務～国際課税、査察	名古屋国税局
10	財政7—税関行政～税関の役割	名古屋税関
11	金融1—金融の役割と重要性、地域との関わり	東海財務局
12	金融2—金融機能の安定、協同組織金融機関	東海財務局
13	金融3—金融商品分野の基礎知識	東海財務局
14	金融4—金融サービスと利用者保護	東海財務局
15	まとめと評価	東海財務局
成績評価方法	毎回提出する課題(50%)と期末試験(50%)の成績で評価する。授業で得た知識をもとに論述できることを合格基準とする。履修取り下げ制度を採用しない。	
予備学習の指示	授業終了後に出された課題について、レポートを提出する。	
教科書・参考書	教科書は指定せず、毎回、レジュメをNUCTに事前配付する。参考書は授業の中で紹介する。	
履修条件・注意事項	履修条件は要さない。講師の都合により授業の順序・内容等が変更されることがある。	

授業科目名	(特殊講義)金融リテラシー(イオン銀行寄付講義)(2単位) Special Studies (Financial literacy)	開講時限	春学期 木曜日2時限
科目区分	専門系科目 経済学科・経営学科関連専門科目	配当年次	2年
担当教員名	穴田将人(イオン銀行取締役 兼 執行役員 審査・リスク管理担当) Masato ANADA コーディネータ:清水克俊(大学院経済学研究科) Katsutoshi SHIMIZU	office hour	講義終了後

授業の目的

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、現代の企業や経済社会が直面する諸課題を把握・分析し、課題解決に取り組むことができる能力を身につけるためには、生活スキルとして「金融リテラシー力(お金に関する知識と判断力)」を身につけることが重要です。金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill. The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank,Ltd..

到達目標

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計(ライフプラン)が作成できるようになる。

The goals of this course are (1)to acquire the knowledge of economy and money for the purpose of being economically independent and having better life, and (2) to be able to make future life plan and to choose services of financial instruments, using the acquired knowledge.

授業の構成

1	金融経済教育の重要性
2	人生とお金
3	お金を稼ぐ(職業選択・収支管理・社会保障制度)
4	お金と経済(金融経済の環境変化とその対応方法)
5	ライフプランを描く①(ライフプランニング概要)
6	ライフプランを描く②(ライフプランニング基礎・キャッシュフロー分析について)
7	お金を借りる①(クレジットローンについて)
8	お金を借りる②(住宅ローンの仕組み)
9	お金をふやす①(投資の意義)
10	お金をふやす②(投資の基本)
11	リスクに備える①(人生におけるリスク)
12	リスクに備える②(生活に潜むリスク)

13	トラブルに強くなる
14	ライフプランを描く③ (ライフプランの作成・演習)
15	全体総括
成績評価の方法と基準 ミニテスト (約 30%) および最終試験 (またはレポート) の点数の加重平均により、総合的に評価する。 上記の目的、到達目標、授業の構成の内容について、基本的な概念や用語を理解し、それらを用いて論述できることを合格の基準とする。履修取り下げ制度を採用する。	
授業時間外学習の指示 配布資料および web 上の参考資料を事後に読むこと。	
教科書・参考書 教科書：授業スライド等資料をダウンロードすること。	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修制限が必要な場合は 2 年生を優先的に受講させる。	

授業科目名	職業指導 (2 単位) Career Guidance	開講時限	春学期 火曜日 4 時限
科目区分	専門系科目 経営学科関連専門科目	配当年次	2・3・4 年
担当教員名	笹尾 幸夫 (南山大学教職センター) Yukio SASAO	office hour	火曜日 4 限授業後
授業の目的 この授業の目的は、職業生活及び産業界の現状と課題を理解することにより、職業生活と職業選択に関する自主的探究力の育成を図ることです。 The aim of this course is to develop the ability to independently explore professional life and career choice by understanding the current situation and issues of professional life and industry.			
到達目標 ・職業生活及び産業界の現状と課題を説明できる。 ・職業生活と職業選択に関して自主的に探究することができる。			

授業の構成

1	学校から職業への移行
2	キャリア教育と社会人基礎力
3	インターンシップの現状と課題
4	職業適性と自己理解
5	主要産業の現状と課題
6	これからの産業と企業
7	官公庁・公的部門の現状と雇用
8	会社組織の現状と課題
9	会社の各部署と仕事内容
10	日本の雇用システムの特徴
11	会社の人材活用とキャリア形成
12	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革
13	働く者のためのワーキングルール
14	仕事の基本とビジネスマナー
15	まとめと評価
成績評価の方法と基準 期末テスト (50%)、レポート (30%)、授業参加態度 (20%) で評価する。それぞれについて C 評定以上を合格要件とする。	
授業時間外学習の指示 授業で指示されたテーマについて、関連文献・Web サイトなどで調べる。	
教科書・参考書 濱口桂一郎『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』(2013 年、中公新書ラクレ) 佐藤博樹・武石恵美子『職場のワーク・ライフ・バランス』(2010 年、日経文庫) 文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』(2012 年、文部科学省 HP)	
履修条件・関連する科目・注意事項 履修条件は要さないが、履修登録は必ずポータル・サイトから行うこと。履修取り下げ制度を採用しない。 欠席が授業時数の 3 分の 1 を超える場合、成績は「欠席」とする。30 分を超える遅刻又は早退は欠席とする。	